

令和 3 年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から 2 氏
ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の制定について記者会見を開催
第35回ビジネスEXPO2021に出展



全学ニュース

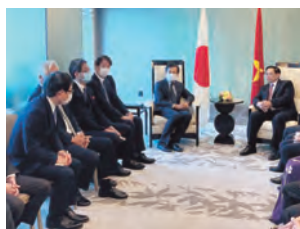
- 1 令和3年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
- 2 大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定
- 5 フロンティア入試合格者の発表
- 6 国際総合入試合格者の発表
- 7 帰国子女入試合格者の発表
- 8 第7回 定例記者会見を開催
- 9 ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の制定について記者会見を開催
- 10 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌南高校、札幌北斗高校にて7名の研究者が講義を実施
- 12 株式会社トムに紺綬褒章が授与
- 13 北大フロンティア基金
- 14 令和3年度「資金総長に伝えたい！」を開催
- 15 読売新聞社と「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム」を開催
- 16 資金総長がベトナム社会主義共和国のファム・ミン・チン首相及び閣僚と会談
- 17 国際シンポジウム“Climate & Cities Conference”にて、“Collaboration between Universities and the Region”を開催、さらに関連イベントにも参加
- 18 横田理事・副学長と恵 淑萍中国北京オフィス所長が第12回日中学長会議に出席
- 19 韓国留学促進イベント「韓国を学ぶ」を開催
- 20 情報セキュリティセミナーを開催
- 21 古河記念講堂のパープル・ライトアップを実施
- 22 高橋文部科学大臣政務官が本学の研究施設を視察
- 23 総長との保護者懇談会をオンラインにて開催
- 24 第35回ビジネスEXPO2021に出展
- 25 令和3年度北海道地方発明表彰を受賞

部局ニュース

- 26 文学研究院FD「COVID-19の教訓から何を学ぶべきか」を開催
- 27 公共政策大学院がオンラインセミナー「カーボンニュートラルとその先に描く北海道の暮らし」を開催
- 28 経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
- 29 経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催
- 30 理学系団地に技術部機械工作室製の足踏み式手指アルコール消毒器を設置



読売新聞社と「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム」を開催



資金総長がベトナム社会主義共和国のファム・ミン・チン首相及び閣僚と会談



ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の制定について記者会見を開催



令和3年度「資金総長に伝えたい！」を開催

- 30 第16回医学研究院連携研究センター研究成果発表会をオンライン開催
- 31 医学研究院医理工学グローバルセンターが第5回医理工学院学生研究発表会／第5回企業との交流会をオンラインで開催
- 32 医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
- 33 歯学研究院で「動物供養祭」を挙行
- 33 薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行
- 34 令和3年度 薬学部成績優秀賞授与式を挙行
- 35 工学系部局で自衛消防訓練等を実施
- 36 工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
- 37 国際シンポジウム「International Symposium on Cocreation of Social System and Technological Innovation for Global Food Resource : 食資源をめぐる社会的制度とそれに連動する技術革新」を開催
- 38 低温科学研究所が愛媛大学沿岸環境科学研究センターと連携協定を締結
- 39 低温科学研究所が創立80周年記念式典・国際シンポジウムを挙行
- 40 Withコロナに対応する附属図書館（本館・北図書館）の学習環境整備
- 41 附属図書館で「Web of Science」「EndNoteオンライン」講習会を実施
- 41 北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭挙行
- 42 環境健康科学研究教育センターFD「SDGsに関する勉強会」を開催
- 43 環境健康科学研究教育センターが公開講座「環境×健康×SDGs」を開催

諸会議の開催状況 44

学内規定 45

表敬訪問 46

人事 47

- 47 新任教授紹介

訃報

- 48 教授 吉岡 充弘 氏
- 48 名誉教授 横川 敏雄 氏

資料

- 49 令和3年度外国人留学生数（令和3年11月1日現在）
- 50 令和3年度国別外国人留学生数（令和3年11月1日現在）
- 51 北大時報掲載記事事項別一覧



高橋文部科学大臣政務官が本学の研究施設を視察



経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催

表紙：第35回ビジネスEXPO2021に出展（関連記事24頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景② 北海道大学病院（北14条西5丁目）

■全学ニュース

令和3年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から北海道大学病院看護部副看護師長 松橋正子氏、北海道大学病院医療技術部特定技術部門生体技工部副技師長 西川圭吾氏が表彰されました。

この表彰は、文部科学省が毎年、医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し、顕著な功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

(総務企画部広報課)



北海道大学病院 看護部
副看護師長
まつはし まさこ
松橋 正子 氏



北海道大学病院 医療技術部
特定技術部門 生体技工部
副技師長
にしかわ けいご
西川 圭吾 氏

この度は、医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、深く感謝申し上げます。

私は北海道大学病院に入職し38年間勤務させていただきました。現在の中央診療検査Iナースセンターでは、血管造影室を中心に15年勤務しています。当部署異動直後に、IVR認定看護師（現在のINE intervention Nursing Expert 日本インターベンションラジオロジー学会 日本心血管インターベンション治療学会 合同認定）を取得しました。これを機にカテーテル治療の看護に深く関わって参りました。

現在では、血管内治療の領域も一般社会で知られるようになりましたが、十分とは言えません。血管内治療を受ける患者の殆どは、意識下で狭い検査台上で身動きを制限され、耐えながら検査治療に臨んでいます。患者は新生児から高齢者、疾患も頭の前から足の先まで対象とし、看護師は幅広い知識技術が求められます。このような場で、看護師の役割は「診療の補助業務」が中心と捉えがちですが、本来「療養の世話」を大事にした看護が必要です。そして検査治療部門でも、北海道大学病院看護部が推奨する「患者参加型看護」を実践することで、患者を中心とした多職種連携で安全・安楽・安心した検査治療の提供ができると考え取り組んできました。2016年には、副看護部長の助言を受けながら、旭川医科大学病院・手稲溪仁会病院とともに「北海道IVR看護研究会」を立ち上げました。この研究会を通し北海道でIVR看護を実践する看護師が、知識技術の向上やモチベーションの維持に繋げられるよう取り組んでいます。今後も血管内治療が広く浸透し、より良い体制の構築に繋がりたいと考えています。

最後になりましたが、ここまでご指導いただきました歴代の看護部長・副看護部長・看護師長や同僚の皆様に心から感謝申し上げます。

(北海道大学病院)

この度、文部科学省の医学教育等関係業務功労者表彰を頂戴し、誠に光栄に存じます。

私は、平成10年に北海道大学歯学部附属病院技工室に文部技官（歯科技工士）として採用され、歯科診療センターに来院される患者様の補綴装置（冠や義歯、インプラント等）の製作を行ってきました。平成15年の医学部附属病院と歯学部附属病院の統合により、北海道大学病院 医療技術部 特定技術部門 生体技工部へと名称が変更され、従来の歯科技工に加え、医科連携の製作物の依頼を受けるようになりました。

特に腫瘍や事故などにより、顔面に欠損を生じた患者様の欠損を補い審美性を回復する顔面補綴装置（エピテーゼ）の製作においては、当初よりデジタル技術を取り入れた製作方法を実践し、本院は、北海道におけるエピテーゼによる顔面補綴治療の拠点として全道各地から、エピテーゼの製作依頼を受けています。

所属する生体技工部では、昨年、COVID-19の影響による対応への一環として、3Dプリンターを応用してフェイスシールドを製作し、各診療科に提供するとともに、感染拡大防止のためのドアオープナーなどの製作にも取り組み、令和2年度の教育研究支援業務総長表彰をいただいたことは忘れられない思い出となっております。

現在、多職種連携によるチーム医療の重要性が叫ばれる中、今後もデジタル技術と歯科技工技術を融合させ、北海道大学病院の一員として医療技術の向上に貢献できるよう努力する所存です。これまでお世話になりました諸先生方、上司はじめ同僚、そして病院職員の皆様に深く感謝申し上げます。

(北海道大学病院)

大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定

11月24日（水）開催のアドミッションセンター試験場部会拡大会議において、令和4年度大学入学共通テスト及び本学一般選抜個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお、大学入学共通テストについては、藤女子大学、天使大学、東海大学札幌キャンパス、北海道武蔵女子短期大学との共同実施となります。

主な事項は、次のとおりです。

（学務部入試課）

大学入学共通テスト

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

（札幌市）

試験場・会場	試験場所	担当学部等
北海道大学試験場		
農学部会場	農学部	農学部
人文・社会科学総合教育研究棟会場	人文・社会科学総合教育研究棟	※経済学部・法学部
理学部会場	理学部	理学部
工学部会場	工学部	工学部
高等教育推進機構A会場	高等教育推進機構E棟2階	※文学部・教育学部
高等教育推進機構B会場	高等教育推進機構E棟3階	※歯学部・薬学部
保健科学研究所会場	保健科学研究所	※獣医学部・医学部
藤女子大学試験場	藤女子大学	※藤女子大学・東海大学・天使大学

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（函館市）

試験場	試験場所	担当学部
北海道大学水産学部試験場	水産学部	水産学部

なお、ELMSを用いたオンデマンド形式でリスニング担当者説明会及び監督者説明会を開催しますので、監督者等となった方は必ず閲覧願います。

本学一般選抜個別学力検査等

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、出題部、採点部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

前期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農学部）	農学部	農学部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※教育学部・文学部
第3試験場（理学部）	理学部	理学部
第4試験場（歯学部）	歯学部	歯学部
第5試験場（工学部）	工学部	工学部
第6試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※医学部・獣医学部
第7試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高等教育推進機構E棟3階	薬学部
第8試験場（保健科学研究所）	保健科学研究所	※法学部・経済学部
第9試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高等教育推進機構N棟2階	実施本部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（上記9試験場で受験者を収容できない場合、別の試験場を設けることがある。）

（第6試験場は、高等教育推進機構大講堂、N1、N2の教室を含む。）

（第6試験場の2日目は医学部が担当する。）

後期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農学部）	農学部	農学部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※経済学部・法学部
第3試験場（理学部）	理学部	理学部
第4試験場（薬学部）	薬学部	薬学部
第5試験場（工学部）	工学部	工学部
第6試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階、3階）	高等教育推進機構E棟1階、2階、3階	※文学部・教育学部
第7試験場（獣医学部）	獣医学部	獣医学部
第8試験場（水産学部）	水産学部	水産学部
第9試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高等教育推進機構N棟2階	実施本部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

なお、ELMSを用いたオンデマンド形式で監督者説明会を開催しますので、前期日程又は後期日程において、監督者等となった方は必ず閲覧願います。

令和4年度 入試実施日程表

種 類		出 願 期 間 等	選 考 期 日 (試 験 日)		合格発表日	入学手続期間	選 考 方 法
フロンティア入試【注1】	フロンティア入試TypeⅠ (大学入学共通テストを課す) (理学部 (地球惑星科学科), 医学部 (医学科, 保健学科 (看護学専攻, 放射線技術科学専攻, 検査技術科学専攻, 理学療法学専攻, 作業療法学専攻)), 歯学部, 工学部 (応用理工学系学科 (応用マテリアル工学コース), 環境社会工学科 (社会基盤学コース)), 水産学部))	学生募集要項公表 R 3.5.27 (木) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 3.9.24 (金) ～10.8 (金)	第1次選考	書類選考	R 3.11.5 (金)	R 4.2.16 (水) ～2.21 (月)	個別学力検査を免除し, 大学入学共通テスト, 課題論文等及び面接を課す。
	第2次選考		R 3.11.21 (日) 課題論文, 面接	R 3.12.7 (火) (医 (保)・工 (社) 除く)			
	最終合格		R 4.1.15 (土) ～1.16 (日) 大学入学共通テスト	R 4.2.15 (火)			
	フロンティア入試TypeⅡ (大学入学共通テストを課さない) (理学部 (数学科, 物理学科, 化学科, 生物科学科 (高分子機能学専修分野)), 工学部 (応用理工学系学科 (応用物理工学コース), 機械知能工学科, 環境社会工学科 (環境工学コース)))		第1次選考	書類選考	R 3.11.5 (金)	R 3.12.10 (金) ～12.15 (水)	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し, 適性試験及び面接を課す。
第2次選考	R 3.11.21 (日) 適性試験, 面接	R 3.12.7 (火)					
国際総合入試		学生募集要項公表 R 3.5.27 (木) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 3.9.24 (金) ～10.8 (金)	第1次選考	書類選考	R 3.11.5 (金)	R 3.12.10 (金) ～12.15 (水) ただし, 条件付合格の場合は R 4.2.16 (水) ～2.21 (月)	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し, 面接を課す。
			第2次選考	R 3.11.21 (日) 面接	R 3.12.7 (火) ただし, 条件付合格の場合の 最終合格発表 R 4.2.15 (火)		
帰国子女入試		学生募集要項公表 R 3.5.27 (木) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 3.9.24 (金) ～10.8 (金)	第1次選考	書類選考	R 3.11.5 (金)	R 3.12.10 (金) ～12.15 (水)	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し, 課題論文等及び面接を課す。
			第2次選考	R 3.11.21 (日) 課題論文 (総合問題), 面接	R 3.12.7 (火)		
大学入学共通テスト		受験案内公表 R 3.9.1 (水) ～公表中 出願期間 R 3.9.27 (月) ～10.7 (木)	本試験	R 4.1.15 (土) ～1.16 (日)			※再試験は本試験が実施できなかった場合に行い, 追試験は疾病等を理由に受験できなかった者を対象に行う。
			再試験・追試験	R 4.1.29 (土) ～1.30 (日)			
一般選抜【注2】	前期日程	学生募集要項公表 R 3.10.1 (金) ～ インターネット出願登録期間 R 4.1.17 (月) ～2.4 (金)	第1段階選抜	大学入学共通テストの成績による (志願者が多い場合)	R 4.2.15 (火)	R 4.3.10 (木) ～3.15 (火)	大学入学共通テスト及び個別学力検査等を課す。
			第2段階選抜	R 4.2.25 (金) 個別学力検査 R 4.2.26 (土) 面接 (医学部医学科, 歯学部)	R 4.3.8 (火)		
	後期日程		第1段階選抜	大学入学共通テストの成績による (志願者が多い場合)	R 4.2.28 (月)	R 4.3.24 (木) ～3.26 (土)	大学入学共通テスト及び個別学力検査等を課す。
			第2段階選抜	R 4.3.12 (土) 個別学力検査等	R 4.3.22 (火)		
私費外国人留学生 (学部) 入試		学生募集要項公表 R 3.10.1 (金) ～ インターネット出願登録期間 R 3.12.20 (月) ～12.27 (月)	第1次選考	書類選考	R 4.1.25 (火)	R 4.3.10 (木) ～3.15 (火)	大学入学共通テストを免除し, 各学部が指定する「第2次選考の実施科目等」及び日本留学試験を課す。
			第2次選考	R 4.2.18 (金) 小論文 (総合問題), 面接	R 4.3.8 (火)		
令和5年度 私費外国人留学生 (現代日本学プログラム 課程) 入試 (令和5年4月入学)	第1期募集	学生募集要項公表 R 3.7.30 (金) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 3.10.26 (火) ～11.17 (水)		R 4.1.7 (金) ～1.17 (月) 書類選考, 面接	R 4.2.15 (火)	R 5.3月	書類選考及び面接を課す。
	第2期募集	学生募集要項公表 R 3.7.30 (金) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 4.2.1 (火) ～2.24 (木)		R 4.4.8 (金) ～4.15 (金) 書類選考, 面接	R 4.5月 中旬		
私費外国人留学生 (Integrated Science Program (学士課程)) 入試 (令和4年10月入学)		学生募集要項公表 R 3.7.30 (金) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 3.11.15 (月) ～11.30 (火)	第1次選考	書類選考	R 4.2.15 (火)	R 4.3月	書類選考及び面接を課す。
			第2次選考	R 4.2.21 (月) ～3.3 (木) 面接	R 4.3.23 (水)		

【注1】
令和4年度入学者選抜より、以下のとおり入試の名称が変更となっている。
・総合型選抜 → フロンティア入試

【注2】
出願した者の内、「新型コロナウイルス感染症に罹患又はその疑いにより受験できなかった者」を対象として、追試験をR 4.3.22 (火) に実施する。
なお、追試験の合格発表はR 4.3.26 (土) に行い、入学手続期間はR 4.3.27 (日) ～3.30 (水) とする。

(学務部入試課)

フロンティア入試合格者の発表

令和4年度フロンティア入試（総合型選抜）は、募集人員144名（TypeⅠ：78名、TypeⅡ：66名）に対し、318名（TypeⅠ：117名、TypeⅡ：201名。昨年度から200名増加）の出願がありました。自己推薦書、個人評価書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月21日（日）に第2次選考の課題論文、適性試験及び面接試験を実施し、12月7日（火）に合格者発表が行われ、TypeⅡでは62名が最終合格となりました。

なお、大学入学共通テストを課すTypeⅠの最終合格者発表は、2月15日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

令和4年度フロンティア入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍 率	第2次選考 合格者数	最終 合格者数
TypeⅠ	理学部地球惑星科学科	5	15 (3)	3.0	5 (2)	2/15に発表
	医学部	5	9 (4)	1.8	5 (3)	
	保健 学科	看護学専攻	7	16 (12)	2.3	2/15に発表
		放射線技術科学専攻	7	12 (7)	1.7	
		検査技術科学専攻	10	5 (3)	0.5	
		理学療法学専攻	4	5 (1)	1.3	
		作業療法学専攻	7	2 (1)	0.3	
	歯学部	5	5 (1)	1.0	5 (1)	2/15に発表
	工学部	応用理工系学科 （応用マテリアル工学コース）	4	- -	-	2/15に発表
		環境社会工学科 （社会基盤学コース）	4	3 (2)	0.8	
	水産学部	20	45 (4)	2.3	23 (2)	
小 計		78	117 (38)	1.5	39 (9)	0 (0)
TypeⅡ	理学部	数学科	13	50 (34)	3.8	13 (9)
		物理学科	14	22 (14)	1.6	10 (6)
		化学科	11	25 (13)	2.3	11 (7)
		生物科学科 （高分子機能学専修分野）	3	6 (1)	2.0	3 (1)
	工学部	応用理工系学科 （応用物理工学コース）	15	49 (28)	3.3	15 (9)
		機械知能工学科	5	18 (5)	3.6	5 (3)
		環境社会工学科 （環境工学コース）	5	31 (12)	6.2	5 (2)
	小 計		66	201 (107)	3.0	62 (37)
計		144	318 (145)	2.2	101 (46)	62 (37)

※（ ）内の数字は、道内高校出身者で内数。

国際総合入試合格者の発表

国際総合入試は、「北海道大学近未来戦略150」に掲げるグローバル人材の育成のため、国や地域、学問分野を超えたボーダーレスなグローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜することを目的として平成30年度入試より導入したもので、主な対象者を国際バカロレア資格の取得者等としています。

令和4年度国際総合入試は、募集人員15名に対し、32名の出願がありました。自己推薦書、志望理由書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月21日（日）に第2次選考の面接試験を実施し、12月7日（火）に合格者発表が行われ、15名が合格しました。このうち、14名は国際バカロレアの最終スコアが1月に発表のため、条件付合格となっています。

なお、条件付合格者の最終合格発表は、2月15日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

令和4年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合入試	文系	5	14 (9)	2.8	5 (3) [5 (3)]	2/15に発表
	理系	10	18 (10)	1.8	10 (4) [9 (3)]	2/15に発表
計		15	32 (19)	2.1	15 (7) [14 (6)]	2/15に発表

※ () 内の数字は、女子で内数。

※ [] 内の数字は、条件付合格者数で内数。

帰国子女入試合格者の発表

令和4年度帰国子女入試は、12学部・学科に46名の出願がありました。出願書類による第1次選考合格者に対し、11月21日（日）に第2次選考の課題論文等と面接試験を実施し、12月7日（火）に合格発表が行われ、12名が合格しました。

（学務部入試課）

令和4年度帰国子女入試合格者数等一覧

学部・学科等				募集 人員	志願者数	合格者数
文学部				若干名	2 (2)	1 (1)
教育学部					2 (1)	0 -
法学部					3 (2)	1 (1)
経済学部					4 (1)	0 -
理学部	数学科				1 -	1 -
	物理学科				- -	- -
	化学科				- -	- -
	生 物 科学科	生物学専修分野			- -	- -
		高分子機能学専修分野			- -	- -
	地球惑星科学科				- -	- -
医学部	医学科				4 (3)	0 -
	保健 学科	看護学専攻			2 (2)	0 -
		放射線技術科学専攻			1 (1)	0 -
		検査技術科学専攻			- -	- -
		理学療法学専攻			- -	- -
		作業療法学専攻			- -	- -
		歯学部			1 (1)	0 -
薬学部					2 (2)	1 (1)
工学部	応用理工系学科				1 -	0 -
	情報エレクトロニクス学科				10 (2)	2 -
	機械知能工学科				3 (1)	3 (1)
	環境社会工学科				2 (2)	2 (2)
農学部					5 (3)	0 -
獣医学部					2 (2)	1 (1)
水産学部					1 -	0 -
計					46 (25)	12 (7)

※（ ）内の数字は、女子で内数。

第7回 定例記者会見を開催

11月18日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しまし

た。吉見 宏理事・副学長（広報室長）の進行のもと、農学研究院の曾根輝雄教授が発表し、北海道教育庁記者クラブ加盟社等から5名の参加があり

ました。発表・報告内容は以下の通りです。

（総務企画部広報課）

発表事項（発表者）

・北海道ワインのヌーヴェルヴァーグ研究室 農学研究院 教授 曾根輝雄



定例記者会見の様子



発表を行う曾根教授



記者からの質問に答える曾根教授



吉見理事・副学長（左）と曾根教授

ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の制定について 記者会見を開催

12月2日（木）、本学でダイバーシティ&インクルージョン推進宣言を制定したことに伴い、記者会見を開催しました。吉見 宏理事・副学長（広報室長）の進行のもと、寶金清博総長から世界の課題解決に貢献するために

は、“多様性と包摂（ダイバーシティ&インクルージョン）”が必要であることから、本学の今後の決意を強く発信するために、ダイバーシティ宣言を12月1日（水）付けで策定したことを発表しました。当日は北海道教育庁記者

クラブ加盟社から4名の参加がありました。発表内容は以下の通りです。

（総務企画部広報課）

10：30～11：30 会場：北海道大学百年記念会館

発表事項（発表者）

・北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の発信について

寶金 清博 総長

吉見 宏 理事・副学長（広報室長）

山口 淳二 理事・副学長（人材育成本部長）

長谷山美紀 副学長（男女共同参画・ダイバーシティ担当）

矢野 理香 教授（人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室長）



記者会見会場



発表を行う寶金総長



当日の発表者（左から寶金総長、山口理事・副学長、長谷山副学長、矢野教授）



会見後の追加取材の様子

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌南高校、札幌北斗高校にて7名の研究者が講義を実施

10月14日（木）札幌北斗高等学校にて、10月22日（金）札幌南高校にて、計7名の研究者が講義を実施しました。

日 時：2021年10月14日（木）15：40－16：40

会 場：札幌北斗高等学校

参加生徒：1－2年生 29名

「医療人として生きる その大変さと喜びと」 医学研究院 助教 川堀真人

川堀助教は幹細胞を培養し、直接脳に注入することにより、脳の傷ついたところを治す再生医療の研究をしています。医療従事者を目指す生徒たちに

向けて、医療現場にはどのような職種があるのか、どのような人材が求められているのかなど、自身の脳外科医としての経験も交えながら話しました。



自身の研究について語る川堀助教

日 時：2021年10月22日（金）14：15－16：05

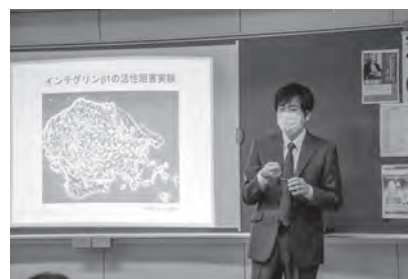
会 場：札幌南高等学校

参加生徒：1－2年生 388名（重複含む）

「がん細胞の動きを止めろ！」 先端生命科学研究院 教授 芳賀 永

細胞生物学が専門の芳賀教授。がんの転移を防ぐには、がん細胞の「集団浸潤」と呼ばれる現象が鍵ではないかと考え、実験を続けています。物理、

化学、生物と様々な分野で研究をしてきた芳賀教授。「進路選択の際にはワクワクする気持ちを判断基準にするのもお勧めです」と話しました。



がん細胞の特徴について説明する芳賀教授

「金（きん）と炭素」 工学研究院／化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD） 教授 伊藤 肇

有機化学をベースに様々な元素を研究し、新しく役に立つ触媒反応、機能性材料などをつくっている伊藤教授。本学のノーベル化学賞受賞者、鈴木章名誉教授／ユニバーシティプロフェッサー、ベンジャミン・リスト特

任教授（ICReDD）の業績を解説。伊藤研究室で開発された金と炭素の結合を持ち、ユニークな性質を示す様々な化合物について紹介し、演示実験も行いました。



演示実験も行った伊藤教授

「原子をあやつり新しい材料をつくる」

工学研究院 教授 米澤 徹

サイズが小さくなるにつれて、反応活性が高くなったり、融点が低くなったりする金属ナノ粒子の様々な性質について解説しました。また、そうした

性質を利用して、サイズや形状、原子配置を制御した金属ナノ粒子を合成し、触媒や電子部品に応用する研究に取り組んでいることを紹介しました。



金属ナノ粒子の性質について解説する米澤教授

「体に優しい高精度陽子線治療をもっと身近に」 医学研究院 准教授 橋本孝之

放射線治療専門医の橋本准教授は、動く部位の腫瘍にも高精度で放射線を照射できる「動体追跡陽子線治療装置」等を用いて、最先端のがん治療と研究に取り組んでいます。自身がどのように進路を選択し、放射線治療専門

医になったかという体験談を交えながら、国内の放射線治療を取り巻く現状を解説。本学で開発された世界初の動体追跡照射技術の原理も詳しく説明しました。



動体追跡照射技術について説明する橋本准教授

「身近な現象を数理モデルで理解する」

電子化学研究所附属社会創造数学研究センター 教授 長山雅晴

長山教授は、様々な現象を数式であらわす数理モデリングの研究をしています。「数式から得られる情報によって現象を理解することが目的なので、数式自体はほとんど解けません」と話し、生徒を驚かせました。時間に伴っ

て変化していく現象を漸化式によって数式化する方法を説明した後、隣り合ったロウソクの炎の動きが同期する現象を数式化し、さらにその数式を用いると炎の動きを予測できることを示しました。



現象を数式化した一例を紹介する長山教授

「夢のエネルギー人工光合成の実現に向けて」 電子科学研究所 特任教授 三澤弘明

脱炭素社会の実現に向けて、人工光合成システムの開発に挑んでいる三澤特任教授。世界のエネルギー資源量やCO2排出量などの社会的な背景に触れつつ、人工光合成技術の研究成果につ

いて解説しました。「将来どのエネルギーを利用するかは社会全体で考えていく必要がありますが、その選択肢を広げられる提案をするのが科学者の役割です」と語りました。



人工光合成の仕組みを話す三澤特任教授

アカデミックファンタジスタとは？

本学の第一線の研究者が、出張講義やオンライン講義などを通じて高校生に研究を伝える「アカデミックファンタジスタ (Academic Fantasia)」。今年度はコロナ対策を十分に行って、札幌近郊の高校等を対象に17名の教員が講義を実施しています。

当事業は、内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと、2012年度より実施しています。

研究広報特設サイト「リサーチタイムズ」やFacebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご

覧ください。

リサーチタイムズ

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/>

Facebook @Hokkaido.univ.taiwa

(総務企画部広報課)

株式会社ムトウに紺綬褒章が授与



寶金総長と松本利光代表取締役副社長

北大フロンティア基金へ多額の寄附を賜りました株式会社ムトウ様へ紺綬褒章が授与されました。

株式会社ムトウ様は医療機器・材料をご提供するだけでなく、医療の基幹部分である基礎研究分野のバックアップや、保健医療・福祉サービスへの支援など幅広い分野で医療に貢献されている企業です。

同社は2018年に創業100周年を迎え、2019年に創立100周年を迎えた本

学医学部とは創業以来の取引を続けており、今後の医学研究に寄与したいという思いから、このたび北大フロンティア基金の特定資金として、学部等支援（医学部創立100周年記念事業）に寄附を賜りました。

伝達式は、10月20日（水）に本学にて行われ、はじめに寶金清博総長から松本利光代表取締役副社長へ、北大フロンティア基金の感謝状を手交し、続いて褒状が伝達されました。

※ 紺綬褒章とは、公益のために私財（法人の場合1,000万円以上）を寄附した者を対象に、表彰されるべき事績の生じた都度、各府省等の推薦に基づき審査され、授与されるものです。

国、地方公共団体又は公益団体（公益を目的とし、法人格を有し、公益の増進に著しく寄与する事業を行う団体であって、当該団体に関係の深い府省等の申請に基づき賞勲局が認定した団体）に対する寄附が授与の対象となります。

（総務企画部広報課）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

毎号掲載しております、北大フロンティア基金へのご寄附情報（累計額・寄附者ご芳名・銘板の掲示内容）につきまして、掲載時期が翌々月へ変更となります。これにより、令和3年11月のご寄附情報は、令和4年1月号に掲載させていただきますことのお知らせさせていただきます。

感謝状の贈呈



一般財団法人 北海道河川財団 様（令和3年10月15日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

令和3年度「寶金総長に伝えたい！」を開催

9月24日（金）及び11月19日（金）、寶金清博総長と本学に在籍する学生とが直接対話する「寶金総長に伝えたい！」を開催しました。

この取組は、総長と学生が直接交流する機会として昨年度に初めて開催したものです。昨年度はオンラインによる1回の開催でしたが、今年度は2回に増やし、感染防止対策を施した上で対面形式により行いました。

9月24日（金）は、入学直後の全面オンライン授業や1年遅れの入学式を経験するなどコロナ禍の影響を最も受けた学部2年次学生を対象とし、各学部から13名が参加しました。

「コロナ禍の学生生活について総長に伝えたいこと」をテーマに意見交換

を行い、学生からは「大学は学問だけでなく出会いの場でもある。それが失われたのは残念」「オンラインにも良い部分がありコロナ後も活用すべき」「海外の学生や教員と一緒に学べる機会をたくさん設けてほしい」「大学側も学生に寄り添ってくれるんだと実感できた。またこのような場を設けてほしい」などの意見がありました。

11月19日（金）は、各学院・研究科等から修士課程6名、博士（後期）課程4名の計10名の大学院学生（外国人留学生2名を含む）が参加しました。

「魅力ある北大大学院とするために総長へ伝えたいこと」をテーマに意見交換を行い、学生からは「自分の専門分野とは違う分野を学べる機会を増や

してほしい」「北大の素晴らしい教育プログラムを学部学生や企業へもっとアピールするべき」「研究室ではポストドク等の若手研究者と話す機会が無いため大学で働くキャリアプランがイメージできない」などの意見がありました。

寶金総長及び山口淳二理事・副学長から、それぞれのテーマに関する学生からの意見や質問に対して、ひとつひとつコメントがありました。

活発な意見交換は長時間にわたって行われ、本学及び参加された学生の双方にとって大変有意義な機会となりました。

（学務部学務企画課）



学生からの質問に答える寶金総長



学生からの質問に答える山口理事・副学長



会場の様子

読売新聞社と「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム」を開催

11月27日（土）、読売新聞社と『ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」～材料で未来を拓く～』を、工学研究院フロンティア応用科学研究棟「鈴木章ホール」で開催しました。

本学は本年3月に、株式会社読売新聞東京本社北海道支社と包括連携協定を結んでおり、このフォーラムは、その連携の一環として実施したものです。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、原則オンライン配信での開催とし、会場には事前に申込みがあった高校生ら約80名が参加しました。

最初に、読売新聞東京本社の南 砂調査研究本部長と、本学の資金清博総長が主催者挨拶を行い、続いて、1973年にノーベル物理学賞を受賞した、横浜薬科大学の江崎玲於奈学長からビデオ講演を頂きました。

基調講演は、2014年に同賞を受賞した、名古屋大学未来材料・システム研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センター長の天野 浩教授と、本学化学反応創成研究拠点（ICReDD）の前田 理拠点長・教授が行いました。天野教授からの基調講演では、ICReDDの特任教授でもあるベンジャミン・リ

スト先生が、本年のノーベル化学賞受賞決定したことに対する祝いの言葉もありました。

その後、同拠点の猪熊泰英准教授も加わり、パネル討論・質疑応答を行いました。質疑応答では参加した高校生から、「作ってみたい夢の材料」についてのアイデア発表等があり、パネル討論に参加した各先生も、感心した様子でこれらの発表等にコメントや回答をされました。

（研究推進部研究振興企画課）



主催者挨拶を行う資金総長



名古屋大学 天野教授の基調講演



講師に質問をする高校生



質問に答える前田拠点長

寶金総長がベトナム社会主義共和国のファム・ミン・チン首相及び閣僚と会談

11月24日（水）、寶金清博総長はヴァー・ホン・ナム駐日ベトナム大使の依頼により、東京都内のホテルで、ベトナム社会主義共和国のファム・ミン・チン首相及び同行した閣僚らと会談を行いました。

寶金総長から「医学研究院・豊嶋崇徳教授の研究成果である唾液によるPCR検査がベトナムに導入され、有効に機能していると聞き大変嬉しく思う。また、本学はベトナムとの関係を重視しており、ベトナム国家大学ハノイ校科学大学内に設置した大学オフィ

スを活用し、研究・教育両面でベトナムの大学等との関係を強化したいと考えている」との発言があり、チン首相より「貴学の貢献に感謝している。今後、更なる協力強化に向けて、本日同席しているグエン・タイン・ロン保健大臣を始め関係閣僚にフォローさせたい」と回答がありました。

また、グエン・チー・ズン計画投資大臣及びファム・ティ・タイン・チャー内務大臣との会談では、「ベトナム人は北海道にとっても良い印象を持っている。直行便がないのが残念である。

貴学とは、医療分野だけではなく、人材育成等他の分野での協力を推進したい」と発言がありました。

11月25日（木）には、豊嶋教授が、チン首相、ロン保健大臣の立会いの下、ベトナム政府の方針を受けたT&Tグループ株式会社との間で、血液がん治療の分野における人材教育等に関する協力覚書に署名しました。

（国際部国際連携課）



チン首相との懇談の様子



ズン計画投資大臣との懇談の様子

国際シンポジウム “Climate & Cities Conference” にて、 “Collaboration between Universities and the Region” を開催，さらに関連イベントにも参加

本学が加盟する気候変動に関する国際大学連盟 “International Universities Climate Alliance (IUCA)” が主催する Climate & Cities Conference が、10月28日（木）～29日（金）の二日間にわたり開催されました。今回の “Climate & Cities Conference” は、IUCA のアジアの加盟校が主催するもので、本学は2日目に “Collaboration between Universities and the Region” と題して、気候変動を踏まえた持続可能なまちづくりに必要不可欠となる、大学と地方自治体の連携に関するセッションを開催しました。

セッションでは、北極域研究センターの大西富士夫准教授がモデレーター

として全体の進行を行い、学内、学外及び海外から5名の講演者が発表しました。

まず、農学研究院の加藤知道准教授が、陸域生態系による炭素吸収の測定とモデリングに関して講演し、続いて、札幌市まちづくり政策局政策企画部の浅村晋彦部長が、ゼロカーボン都市を目指す札幌市の取組を紹介、そして、高等教育推進機構の三上直之准教授が、脱炭素社会について一般市民が議論する気候市民会議について講演を行いました。

その後、イギリスの Marcharh Initiative のディレクターであるアリアル・トーさんが、サステナビリティに関連する

高等教育プログラム等と連携した ASEAN 地域の取組を紹介、また、ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）博士課程学生のカイリー・グッドウィンさんが、オーストラリアでのネットゼロエミッションに向けた炭素排出削減に関する講演を行いました。

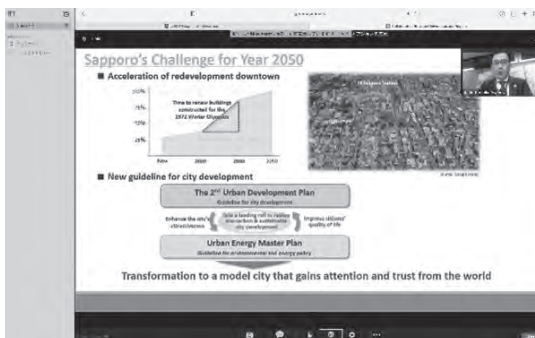
同日には、加盟校の学生が自身の気候変動に関する研究発表を短時間で行うピッチコンテストも開催され、本学から参加した国際食資源学院修士課程2年の二宮秀輝さんが、審査の結果、勝者に選ばれました。



モデレーターを務める大西准教授（北極域研究センター）



講演する加藤准教授（農学研究院）



浅村部長（札幌市まちづくり政策局政策企画部）による講演



三上准教授（高等教育推進機構）による発表

関連イベントへ参加

グラスゴーで開催された第26回気候変動枠組条約締約国会議開催に合わせ、11月11日（木）にIUCA主催により開催された“Collaboration in Asia: how universities can cocreate resilient communities”では、横田 篤理事・副学長が本学の概要及びSDGsに関する

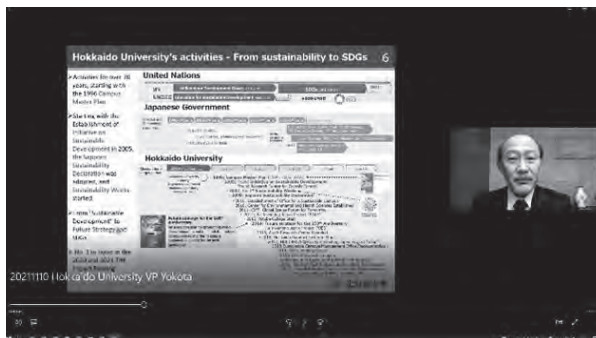
取組を紹介し、北極域研究センターの大西准教授が上述のセッションの報告を行いました。

その後、IUCAのモデレーターからの質問形式により開催された学生によるパネルセッションでは、国際食資源学院修士課程2年の二宮さんが、自身

の研究内容や本学の研究環境等について発表しました。

今後も、IUCA等のイベントを通して本学での取組を世界に向けて発信していく予定です。

（国際部国際連携課）



本学について紹介する 横田理事・副学長



学生によるパネルセッション
（右上：国際食資源学院修士課程2年二宮さん）

横田理事・副学長と恵 淑萍中国北京オフィス所長が 第12回日中学長会議に出席

10月29日（金）、第12回日中学長会議が開催され、横田 篤理事・副学長と恵 淑萍中国北京オフィス所長がオンライン出席しました。中国の中山大学が主催となり開催された今回の全体会合は、コロナ禍によりオンラインでの実施となりましたが、日中計46大学・関係機関から約120名が参加しました。

日中学長会議は、2000年に東京で第1回が開催されて以来隔年で開催されており、両国を代表する大学の代表者が一同に会し、大学の在り方や共通の課題について議論を行う場となっています。

第12回となる今年は、「開放、イノベーション、融合-日中協働による高等教育の新たな展開を目指して-」をテーマに、中山大学の肖 海鵬常務副学長及び上智大学の森下哲朗副学長からの基調講演に続いて、2つのセッシ

ョンが行われました。セッションでは「人材育成における日中大学の新たな挑戦と機会」及び「科学技術イノベーションにおける日中大学間協力の在り方」をサブテーマとして日中各4大学から講演が行われた後、参加者により活発な意見交換が繰り広げられました。

今回は、2023年に広島大学の主催により開催される予定です。

（国際部国際連携課）



参加する横田理事・副学長



日中からの出席者

韓国留学促進イベント「韓国を学ぶ」を開催

11月24日（水）、韓国ソウルオフィスは設立10周年を記念して、韓国留学促進イベント「韓国を学ぶ」をオンラインで開催しました。

韓国ソウルオフィスは、平成23年4月に設立され、これまでの約10年間に韓国の協定校と「大学交流デー」を14回開催したほか、留学フェアへの参加、韓国人同窓生やアンバサダー・パートナーとの連携など、韓国との教育・研究交流や同窓生との連携を促進するための取組を行ってきました。

今回のイベントは、本学の学生に韓国や韓国留学についての情報を提供し、韓国に留学する学生が極めて少ない状況の改善に寄与することを主たる目的として、札幌韓国教育院や「韓国ソウルオフィス活動検討会議」のメンバーをはじめとする関係各位の協力を得て開催し、本学の教職員及び学生等、33名が参加しました。

イベントでは、まず、韓国ソウルオフィス所長の川野辺創国際連携機構・副機構長から挨拶があり、その後、川野辺所長の司会により「韓国を知るセッション」と「韓国への留学プログラムを紹介するセッション」が行われました。

「韓国を知るセッション」では、韓国の国立国際教育院が制作した動画を視聴した後、札幌韓国教育院の金明蓮院長による韓国紹介とメディア・コミュニケーション研究院の金成准教授による「韓国を学ぶことについて考える」と題したミニレクチャーを行いました。続いて、「韓国への留学プログラムを紹介するセッション」では、同研究院の玄武岩教授からの総括的な紹介に続いて、国際交流課からの留学プログラムの案内、韓国ソウルオフィスからの韓国の大学間協定校が運営する短期プログラムの紹介、在学

生の加藤恵美さん（医学部保健学科）からの留学体験談が紹介された後、質疑応答がありました。

実施後に行った参加学生へのアンケートでは、「とても参考になり留学への関心が高まった」、「実際の体験談を詳しく聞くことができてよかった」、「留学に必要な様々な情報を得られてよかった」、「留学以外のことでも韓国に関わりたと思うようになった」といった声が寄せられました。

今回のイベントは、韓国と韓国留学について学生の関心を深めるきっかけとなりました。今後も韓国ソウルオフィスでは、韓国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの活用を強化し、幅広い面で交流を推進していきます。

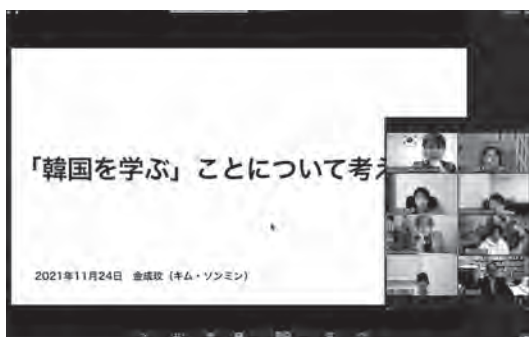
（国際部国際連携課）



司会をする川野辺韓国ソウルオフィス所長



韓国等について紹介する金札幌韓国教育院長



金准教授によるミニレクチャー



加藤さんの留学体験談

情報セキュリティセミナーを開催

情報環境推進本部では、獣医学研究院と共催で11月4日（木）に一般向け及び獣医学研究院FD/SD研修として、5日（金）にシステム管理者及びITサポート担当者向けとして「北海道大学情報セキュリティセミナー」を、ハイブリット形式と完全オンライン形式にて開催しました。

講師には、情報セキュリティ分野で数多く講演をされている日本電気株式会社サイバーセキュリティ戦略本部本部長の淵上真一氏を迎え、一般向け及びFD/SD研修では「"安心"のためのセキュリティ」をテーマとする講演が行

われました。最近のサイバー攻撃による脅威動向や、現在関心が高まっている多種多様なクラウドサービスの安全な運用・利用方法等について解説があり、受講者からは平易な表現で理解しやすかったとの声が寄せられました。

システム管理者及びITサポート担当者向けセミナーでは「システム管理者のためのセキュリティははじめの一歩」をテーマとし、主に情報システムに携わっている方への注意点や情報システム調達の留意点等の解説があり、こちらも受講者からはわかりやすく、他の事例についてももっと聞きたい等

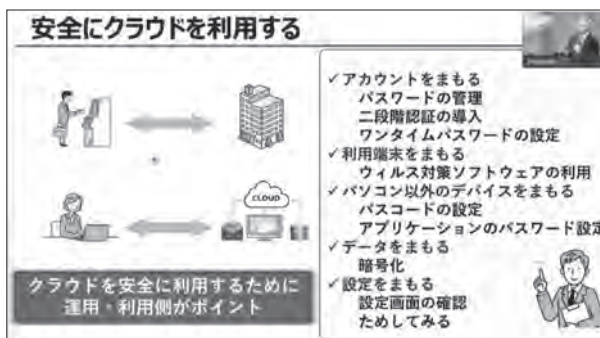
の声が寄せられ、好評を得ました。

今回は2回のセミナーに延べ170名程度の参加者があり、年々参加者が増加していることから、情報セキュリティに対する関心の高さが伺えます。昨今、サイバー攻撃は手口が巧妙化しているため、最新動向を把握する必要があります。情報環境推進本部では、構成員の情報セキュリティに対する意識向上を目指し、今後もセミナーの開催や研修会の実施等、情報セキュリティの支援に取り組んでまいります。

（情報環境推進本部）



講師の淵上氏



クラウドの安全な利用方法について解説

古河記念講堂のパープル・ライトアップを実施

本学は、内閣府が実施している「女性に対する暴力をなくす運動」に賛同し、女性の人権尊重ならびにハラスメントや差別的言動に対する学内構成員の意識向上を図るため、11月12日（金）・13日（土）に、その運動のシンボルカラーの紫色で古河記念講堂をライトアップしました。

12日の点灯式では、山口淳二理事・副学長が挨拶で「多様性を尊重し女性への暴力をなくすことは大学として重要、解決に向けて考えていこう」と話しました。山口理事・副学長、長谷山美紀副学長（男女共同参画・ダイバーシティ担当）、大学院生の白井那奈さんの点灯合図により古河記念講堂がパープルに彩られ、点灯式の参加者から

拍手と歓声があがりました。その後、白井さんはショートトークの中でデートDVの防止を訴えました。

両日ともに多くの学生や市民で賑わい、パンフレットやリーフレットにも関心を示して立ち止まる方が多く見かけられました。女性に対する暴力やデートDVについての認識を深めていただき、一人でも多くの助けを必要としている人に相談先情報が届くよう、本紙読者の皆様からお声がけをお願いいたします。

「女性に対する暴力をなくす運動」のリーフレットや「デートDV」に関するパンフレットを学内に配布しております。またダイバーシティ研究環境

推進室のWebサイトの中に特設ページを作成しておりますので、こちらもぜひご覧ください。

<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/archives/19054/>

ダイバーシティ研究環境推進室では、12月1日に発信されました「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」に関わる様々なイベントを開催しております。詳しくはこちらをご覧ください。

<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/archives/19018/>

（人材育成本部）



古河記念講堂パープルライトアップ



記念撮影



白井さんショートトーク



パープルライトアップとポスター

高橋文部科学大臣政務官が本学の研究施設を視察

11月9日（火）、高橋はるみ文部科学大臣政務官が、本学の研究施設の視察に訪れました。

はじめに北海道大学病院の陽子線治療センターを訪れ、増田隆夫理事・副学長、秋田弘俊病院長、青山英史センター長と挨拶の後、北海道大学が知財を有する「動体追跡照射技術」と株式会社日立製作所の「スポットスキニング照射技術」を融合した、国内外で評価の高い最先端の陽子線治療機器を見学しました。

高橋政務官は、本学医理工学院が2017年開設以降、医理工系研究者や医学物理士を輩出してきたこと、また北海道大学病院では保険収載された疾患において陽子線治療患者数が増加し、全身麻酔下陽子線照射が可能な小児がん拠点病院として道外からも患者を受け入れているが、現在はコロナ禍で患者数がやや減少し、海外患者も受入困難な状況となっており、安定した稼働率（100%）を維持するための支援を期待していること、放射線治療科では今後も高精度放射線治療を担う放射線治療医のさらなる育成と、遠隔地在住の患者負担を軽減するための新規システム開発により、北海道の抱える課題

解決を目指していること等の説明に熱心に聴き入っていました。

次に、創成研究機構に移動し、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の採択拠点である化学反応創成研究拠点（ICReDD（アイクレッド））の概要を前田 理拠点長から、ナノテクノロジープラットフォーム事業の概要を松尾保孝ナノテク連携推進室長から説明した後、それぞれの研究設備などを見学しました。

ICReDDでは、ノーベル化学賞の受賞が決定したリスト・ベンジャミン特任教授の研究グループなど、異なる分野の研究者たちが同じ空間で研究を行う、独創的なMix-Lab（ミックス・ラボ）を見学しました。高橋政務官は、特に新しい化学反応を効率的に探索する自動有機合成ロボットの説明に度々質問をされるなど、とても興味を持たれた様子でした。

次にナノテクノロジープラットフォームでは、クラス100のクリーンルーム内に設置された超高精度電子線描画装置、スパッタ装置、ドライエッチング装置等の半導体微細加工プロセスに関わる装置群、原子を可視化することができる収差補正電子顕微鏡など、重

要性が今まで以上に増しつつ日本が強みを持つマテリアル研究に関わる最先端の研究設備を見学しました。高橋政務官は、大型設備が全国的なネットワークを形成し、若手研究者支援に積極的に活用される環境に関心を示されました。

引き続きICReDDサロンに移り、前田拠点長及び若手研究者らと懇談し、ICReDDの現在の優れた研究環境や実験設備について、また、若手研究者への支援制度や競争的研究費の施策等について、活発に意見交換が行われました。

北海道大学病院、創成研究機構で予定の視察を終えた後、最後に事務局に移動して、寶金清博総長、山口淳二理事・副学長、増田理事・副学長、村田善則理事、石森浩一郎副学長、前田拠点長と懇談し、高橋政務官は「大変参考になりました」「北海道大学の今後の躍進を期待します」との言葉を述べられて、本学視察の全行程を終了しました。

（創成研究機構、北海道大学病院）



北海道大学病院陽子線治療センターでの集合写真



ナノテクノロジープラットフォームを視察する
高橋政務官（左）と松尾室長



ICReDDの若手研究者らと活発な意見交換を行う高橋政務官（左）



寶金総長、理事らとの集合写真

総長との保護者懇談会をオンラインにて開催

学士課程1年次在籍者の保護者と寶金清博総長が、直接意見交換・質疑応答を行うことを目的として、10月31日（日）にオンラインによる懇談会を開催しました。定員を大幅に超える応募があり、抽選の結果、全国各地から47名の保護者の参加がありました。

最初に寶金総長から挨拶があり、大学のビジョンと、応募時に事前に寄せられた保護者からの意見・質問を踏まえた形でポストコロナの教育デジタル化や今後の授業実施方針について説明がありました。特に、今後の授業実施方針においては、寶金総長が学生との

懇談会で行った意見交換の内容を取り上げる形で、コロナ禍における大学の対応やこれからの展望についてわかりやすく説明されました。

続いて、山口淳二理事・副学長から、本学の歴史や基本理念、国際交流や学生支援活動の紹介があり、コロナ禍における学生支援活動、留学プログラム、新渡戸カレッジ及び校友会の活動にも触れられ、本学の教育について様々な視点から情報を提供されました。

その後に設けられた意見交換・質疑応答では、大学における起業家の育

成、オンライン授業の教育効果、総合入試入学者の学部移行までのプロセス、コロナ禍の学生支援、留学支援等について様々な意見や質問が寄せられ、寶金総長から、保護者の立場に寄り添いながら一つ一つ丁寧に説明がなされました。

総長と保護者の懇談会は今回が初の試みでしたが、大学と保護者の方々との相互理解を深める大変有意義な機会となりました。

（高等教育推進機構総合教育部）



保護者と意見交換をする寶金総長と山口理事・副学長



高等教育推進機構での配信の様子

第35回ビジネスEXPO2021に出展

11月11日（木）・12日（金）、アクセスサッポロ（札幌市白石区）にて「ビジネスEXPO2021」が開催され、本学も出展しました。

ビジネスEXPOは出展企業や機関が、新製品のアイデア、新たな販路の開拓とその拡大、そして事業発展のきっかけになるような新技術・新商品等を積極的にアピールすることで、新技術・新商品等を「発見」できる魅力的な場所の提供を目的としています。

本年は、「持続可能な未来創造に向けて～新たな北海道ステージの扉を開く～」をテーマとして開催されました。

新型コロナウイルス感染症への対策を行ったうえで道内外277社が出展し、アフターコロナを見据え北海道の

未来に向けた新たな価値・サービスを発信する「SDGs・未来創造ゾーン」が新たに設けられ、本学はそちらに出展しました。

本学のブースでは令和3年6月に内閣府から認定された地域バイオコミュニティである「北海道プライムバイオコミュニティ」及び本学から2課題が採択された「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」に係る紹介展示のほか、触媒科学研究所の福岡淳教授が開発した触媒を活用した、フードロス削減への取り組みとして「フードロス削減コンソーシアム」の紹介を行いました。開会式に引き続き、北海道知事・鈴木直道氏、ノーステック財団理事・真弓明彦氏が本学ブースを訪

れ、寶金清博総長及びCOI-NEXTのプロジェクトリーダーである吉野正則客員教授から、本学の取り組みについて説明を行いました。

開場後は多くの参加者が本学ブースを訪れ、展示内容の照会や本学と協業する場合の形態など、具体的なご相談を多数いただきました。

来場者が2日間で現地来場20,180名、WEB参加8,059名の合計28,239名となり、地域にお住まいの方々、企業及び自治体関係者等の皆様との交流がますます深まったイベントとなりました。

（産学・地域協働推進機構）



左から、吉野客員教授、真弓明彦ノーステック財団理事長、鈴木直道北海道知事、寶金総長、寺内産学・地域協働推進機構副機構長。北大ブースにて。



北海道プライムバイオコミュニティのネットワーク機関「北海道3連絡会（Hokkaido Cubix）」
左から、真弓明彦ノーステック財団理事長、鈴木直道北海道知事、寶金総長。ノーステック財団特設ブースにて。

令和3年度北海道地方発明表彰を受賞

本学認定商品「ナノ型コンドロイチン」に使用されている特許「コンドロイチン硫酸オリゴ糖を製造する方法（特許第6146733号）」が、令和3年度北海道地方発明表彰を受賞しました。本特許は菅原一幸名誉教授、山田修平准教授（当時/現・名城大学教授）が地方独立行政法人北海道立総合研究機構、丸共水産株式会社と共同で出願したものです。

受賞者は下記の通りです。

■令和3年度北海道地方発明表彰
北海道経済産業局長賞
・丸共水産株式会社
代表取締役 宮本宜之氏

・地方独立行政法人北海道立総合研究機構
工業試験場 材料技術部
主査 松嶋景一郎氏
ものづくり支援センター
研究主任 浦 晴雄氏
エネルギー・環境・地質研究所
循環資源部 主査 鎌田樹志氏
・学校法人名城大学
薬学部 教授 山田修平氏
■実施功労賞
・地方独立行政法人北海道立総合研究機構 理事長 田中義克氏
・北海道大学 総長 寶金清博氏

今回受賞した地方発明表彰は大正10年に開始・実施されている優れた発明、考案又は意匠を生み出した技術者・研究開発者を全国8地方に分けて顕彰するものです。また、全国規模で実施する全国発明表彰に繋がっており、さらなる飛躍のチャンスを得ることができます。

当機構は今後も大学の研究成果の社会実装を目指し、社会への貢献と発展を目指します。

（産学・地域協働推進機構）



左から浦氏、松嶋氏、宮本氏、鎌田氏、寺内伊久郎 産学・地域協働推進機構副機構長（総長代理出席）

■ 部局ニュース

文学研究院FD「COVID-19の教訓から何を学ぶべきか」を開催

文学研究院では、「COVID-19の教訓から何を学ぶべきか」と題するFD研修を、11月19日（金）午後2時45分からZoomによるオンライン形式で開催しました。講師は本研究院の池田 透教授にお願いし、「外来種管理の視点から見た新興感染症対策の課題と今後のパンデミックへの対応（One health, SDGsとの関係性を含む）に向けて」の副題で、質疑応答を含み約1時間半にわたり開催されました。

今回、池田教授からは、最新のデータを用いた説明がなされ、「COVID19問題をどのようにとらえるか」、「ウイルス（COVID 19 ウイルス「SARS CoV 2」）の特性」、「COVID19は外来種」、「外来種とは何か?」、「ウイルスの特徴から考えられる予防対策」、「外来種対策の難しさとCOVID 19」、「ウイルスから見た適応と3密回避の意義」、「今後のパンデミックへの対応」などのテーマにそって、詳細な説

明がありました。

本研究院では、このテーマのFDは初めての開催となりましたが、研究院内の教職員62名がZoomで参加し、予定の時間を超過して質疑応答が行われるなど、現下の日本と世界が抱える諸問題点に鋭い考察が含まれた内容で、受講者の関心の高さがうかがえるFDでした。

（文学研究院）



進行役の文学研究院 加藤重広総務委員



講師の文学研究院 池田教授



Zoomでの研修の様子

公共政策大学院がオンラインセミナー 「カーボンニュートラルとその先に描く北海道の暮らし」を開催

公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）では、11月12日（金）にオンラインセミナー「カーボンニュートラルとその先に描く北海道の暮らし」を開催しました（大学院法学研究科附属高等法政教育研究センターと共催）。

異常気象が異常とも思われなくなってきた今日、気候変動対策は喫緊の課題であり、我が国として、2050年までにカーボンニュートラルの達成、2030年に温室効果ガス2013年度比46%削減を目指しているところです。本セミナーは、気候変動対策と生物多様性保全への統合的な取り組みへの国際的な重要性認識が高まっていることも踏まえ、自然豊かな北海道におけるカーボンニュートラルと生物多様性保全に向けた取り組みはどうあるべきか、カーボンニュートラルとその先において、

北海道ではどのような暮らしを実現していくべきなのかを考えるべく、企画されました。

本セミナーでは、まず、北海道電力株式会社経営企画室企画・政策グループの南波慎太郎氏から「『2050年カーボンニュートラル』を目指して」と題するご講演、続いて北海道ガス株式会社都市エネルギーグループの鈴木峻太氏から「カーボンニュートラル実現に向けた地域連携の取組み」と題するご講演があり、北海道の主要エネルギー供給企業の取り組みの現状と今後について伺いました。その後、公共政策大学院の中尾文子教授から「気候変動と生物多様性、統合的取組みに向けた課題」と題する講演、続いて環境省北海道地方環境事務所環境対策課の青地絢美氏から「地域の資源を生かし、脱炭素を目指す地域循環共生圏の創出」と

題するご講演があり、自然豊かな北海道において目指すべきカーボンニュートラルの姿や、気候変動対策と生物多様性保全の統合的視点を持つ地域循環共生圏の事例について伺いました。

平日午後の授業時間帯だったにもかかわらず、公共政策大学院内外から53名もの参加を得て、各講演者と活発な質疑応答が行われ、カーボンニュートラルというテーマへの関心の高さが窺えました。

公共政策大学院では、本セミナーのように、社会の第一線で活躍する実務の方々の協力も得ながら、「文理融合」や「理論と実践の架け橋」という特徴を活かした人材育成に資する場を引き続き提供していきます。

（公共政策学教育部・
公共政策学連携研究部）



オンラインセミナー プログラム



質疑応答・総括の様様

経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催

経済学部では、札幌国税局長の中田 悟氏による『「税」を考えるーくらしを支える税について一緒に考えてみませんか』と題する特別講演会を11月25日（木）にオンラインで開催しました。中田氏は、大蔵省銀行局に入局後、都城税務署長、大阪国税局査察部長、国税庁課税部法人課税課長、財務省大臣官房会計課長、東北財務局長などを務められ、令和3年より札幌国税局長に就任されました。この間、外務省在イタリア日本国大使館一等書記官を経験されています。

講演では、一緒に税について考えようということで、考える際の枠組みとして5つの視点を提示し、前半と後半に分けてお話が進められました。この5つの視点とは、（1）税をなぜ払うのか、（2）税を誰にどのように負担してもらうか、（3）税は正しく払われているか、（4）税は真に必要なものに使われているか、（5）財政赤字をどうするかであり、それぞれの視点を考える際の参考とする資料が説明されました。

（1）では税は公的サービスのための社会の会費であり、財源調達機能、

所得分配機能および経済安定化機能という役割があることが、（2）では公平の原則、中立の原則および簡素の原則という三原則に配慮しながら、所得税や法人税、消費税などの具体的な税での負担をどのようにするかを決める税制を考える必要があることが指摘されました。さらに、（3）国税庁では、税の適正かつ公正な賦課と徴収の実現を図るために、不正の調査ばかりではなく、広報活動を行い、納税者サービスの充実などの納税環境の整備も行っていること、（4）集められた税が一般会計歳出としてどのように使われているかを示されたうえで、（5）将来世代への税負担の先送りの問題からも、現在の財政赤字をどうするかを考える必要が述べられました。その際に、歳出を減らすには（4）税が真に必要なものに使われているのかを、歳入を増やすには（2）誰にどのように負担してもらうのかと（3）税が正しく払われているかを検討することが大事であると指摘されました。最後に、職場としての国税庁の紹介があり、講演会は終了しました。

講演会は、動画を同時に視聴する方

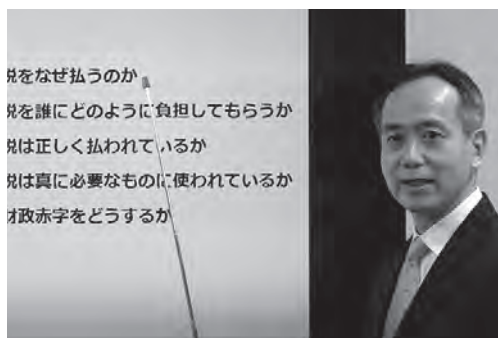
式で開催され、経済学部生を中心に、他学部生を含めて、168人が参加しました。視聴した学生からは、上に挙げられた諸点以外にも、「コロナ対策で歳出が前年比75%も増加したこと」、「消費税が10%になってもそれほど税収増にはなっていないこと」、「国税庁が広報活動に力を入れていること」、「税負担の決定は国会議員を通じて自ら決定しているということ」、「税の公平では垂直的公平の他に水平的公平ということも重要であること」、「各種税金の安定性と景気との関係」、「税の利用目的から徴収手段を考えていること」、「申告漏れ調査件数とその金額が結構多いこと」、「法人税率は国際的な引き下げ競争にさらされていること」などが記憶に残った点として寄せられました。今まで考えていなかったところを知り、改めて税について考える機会になったようです。

経済学部では、学生が社会問題に関心を抱き、将来を主体的に考えてもらうよい機会になることを期待し、今後

も講演会を企画していく予定です。（経済学研究院・経済学院・経済学部）



中田札幌国税局長



オンラインでの講演の様子

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）では、11月18日（木）に、JICA北海道と共催で、シンポジウム「北海道からSDGs」をZoomによるオンラインで開催しました。JICA北海道の石丸 卓所長、東洋農機株式会社の大橋敏伸監査役、特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会の吉田三千代代表の3名が登場し、公的機関、企業、NGOそれぞれの立場から、SDGsや国際協力に関する取り組みについて講演していただきました。

石丸氏は「信頼で世界をつなぐ～JICAの国際協力と地域との連携～」と題し、SDGsとJICAの活動について講演されました。北海道における研修員受け入れ事業や草の根技術協力事業等の取り組みを紹介するとともに、高齢化・人口減少に直面する北海道にお

ける多文化共生・相互理解の重要性といった視点からお話がありました。

大橋氏からは「インド国におけるジャガイモ収穫機の普及実証」というテーマで、東洋農機株式会社の国際協力の取り組みについて紹介がありました。帯広に所在する同社は、これまでアフリカ等の途上国に農業機械を輸出してきた実績があります。講演では、インド・パンジャブ州におけるジャガイモ収穫機の普及・実証事業が取り上げられ、背景としての出稼ぎ労働や収穫慣行等の実態に始まり、様々な問題を技術的に解決してゆく同社の取り組みが紹介されました。

吉田氏からは「教育・就労と車いす」というテーマで、「飛んでけ！車いす」の会の活動について紹介されました。1998年に設立された同会では、国内で使われなくなった車いすを集め

て修理をし、これまでに81カ国に3100台以上を贈り続けています。講演では、同会が最近取り組んでいるバリ島での活動の詳細を語られました。車いすを受け取り勉学に励む子供の事例、整備士の育成事業やレストラン事業の取り組みを紹介され、同会の活動と教育や就労との関わりを説明されました。

最後に、経済学研究院の樋渡雅人准教授をファシリテーターとして、オンライン参加者との間で活発な質疑応答がなされました。今回のシンポジウムには、道内を中心に国際協力に関心を持つ市民や学生、実務家の方々、64名が参加（視聴）しました。北海道とSDGsの関わりについて、多様なアイデアや観点から創造的な刺激を受ける機会となりました。

（経済学研究院・経済学院・経済学部）



JICA北海道 石丸所長



東洋農機株式会社 大橋監査役



特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会 吉田代表



司会 経済学研究院 樋渡准教授

理学系団地に技術部機械工作室製の足踏み式手指アルコール消毒器を設置

理学系団地では、11月初めから建物の出入口等に新型コロナウイルス感染症対策として、理学研究院の技術部機械工作室が製作した足踏み式の手指アルコール消毒器15台を設置しました。これは、実験機器等の作成後、廃材等を活用し製作したもので、高さ1,230mm、幅250mm、奥行き320mmのスリムなものとなっています。これまでは、カラーボックス等の上にアルコール消毒液を設置していましたが、今回製作したものは、設置スペースが大幅に小さくなり、また、消毒液の高

さも使いやすいものとなりました。

11月1日（月）から、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための北海道大学の行動指針」がレベル1となり、少しずつ以前のような活動を取り戻しつつありますが、諸外国では再び感染拡大も見られることから、今回、新たに設置した消毒器を有効に活用し、引き続き気を緩めることなく感染対策を実施してまいります。

（理学・生命科学事務部）



設置した足踏み式の手指消毒器

第16回医学研究院連携研究センター研究成果発表会をオンライン開催

医学研究院では、11月4日（木）に第16回医学研究院連携研究センター研究成果発表会をオンラインにて開催しました。

本センターは、長期的展望に基づいて堅実な知を追求する基盤的研究と、目標と期間を設定して先端的・革新的な研究開発を目指す戦略的研究の融合を図ることを目的として、平成18年4月1日に設置された学際的研究拠点で

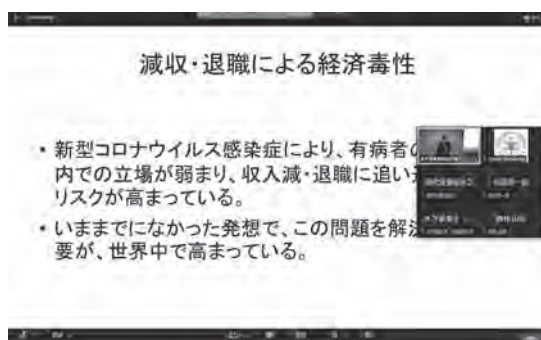
す。これまで、大型研究プロジェクトを中心として多彩な研究活動が展開され、医学・生命科学と理工学の融合領域において、世界をリードする数多くの研究成果が得られています。

今回の研究成果発表会では、約70名の教職員・学生等の参加があり、センターの各分野から最新の情報が提供され、活発な質疑応答が行われました。

また、特別講演として、愛知県がん

センター薬物療法部医長の本多和典氏による「がん医療の経済毒性と療養・就労両立支援」と題した講演を行いました。参加者にとって、今後の取り組みに向けた新たな可能性が示唆された研究成果発表会となりました。

（医学研究院）



オンライン開催の模様



講演する愛知県がんセンター本多氏

医学研究院医理工学グローバルセンターが第5回医理工学院学生研究発表会／第5回企業との交流会をオンラインで開催

医学研究院医理工学グローバルセンターは、11月17日（水）に、第5回医理工学院学生研究発表会／第5回企業との交流会を開催しました。本発表会は、医理工学院の学生が日々の研究成果を発表する場であるとともに、本学院の教育活動や研究成果等を多方面に知って頂くことを目的とし、例年秋頃に開催しています。

今年で5度目となる本発表会は、昨年度と同様に新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、Zoomを用いたオンライン開催となりました。発表する修士1年生や企業の方々に、開会に先立って事前の動作確認を実施するなどの対応を取り、円滑に進行することができました。オンライン開催は遠方からで

も参加しやすいという利点から学生27名、教員25名、企業9社20名の計72名の参加がありました。

医理工学院の学生にはそれぞれ異なる分野の指導教員が2名ずつ配置され、本学院の研究領域である医学・理学・工学の融合領域における研究発表を適切に行えるよう配慮した教育・指導が行われています。

今回発表した修士1年生は入学時から研究活動に大幅な制約がありながらも、前向きに研究に取り組み、本発表会では新進気鋭の発表が揃い、活発な質疑応答が行われました。また、昨年度に続き、修士2年生がポスター制作、抄録作成、当日の受付、司会進行等の運営に携わり、研究以外の面にお

いても研究者・技術者として今後に役立つ実践的な知識や経験を学ぶ貴重な機会となりました。

ご参加いただいた企業の方々からも、各発表に対して大変高い評価を得るとともに、本発表会によって医理工学院における教育や研究について知見を深めることができたとのコメントをいただきました。

来年度以降も引き続き開催し、医理工学院の教育活動の発展に寄与する機会となるよう、さらなる充実を目指していきます。

（医理工学院・医学研究院）



久下裕司医理工学院長による挨拶



橋本孝之医理工学院就職担当教員による司会進行の様子

医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、11月5日（金）に、学術交流会館講堂において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法理解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された436名の御霊の御冥福をお祈りするため、慰霊式を執り行いました。

今年度の慰霊式は新型コロナウイルス

感染症の感染拡大防止対策を取りながら行われ、御遺族、寶金清博総長、畠山鎮次医学部長、八若保孝歯学部長、伊達広行医学部保健学科長、秋田弘俊病院長、教職員、学生等約52名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者全員による黙祷を行い、次いで、畠山医学部長及び八若歯学部長から、御霊の御意志に報いるためにも一層の教

育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞がありました。その後、参列者による献花を行い、最後に畠山医学部長から謝辞があり、慰霊式は厳粛のうちに終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部、
歯学院・歯学研究院・歯学部）



追悼の辞を述べる畠山医学部長



追悼の辞を述べる八若歯学部長



献花をする寶金総長



謝辞を述べる畠山医学部長及び八若歯学部長

歯学研究院で「動物供養祭」を挙行

歯学研究院では、11月29日（月）、大会議室において、令和3年度動物供養祭を執り行いました。本供養祭は、過去1年間に歯学教育・研究のため実験に供された動物（ラット、マウス計1,359体）への感謝と追悼のために毎年実施しており、新型コロナウイルス感染防止対策を行い、教職員、学生等の

動物実験関係者約30人が参列しました。

本供養祭では、最初に八若保孝歯学研究院院長から挨拶があり、次いで動物実験委員会委員長の船橋 誠教授から、動物実験施設の利用にあたって引き続き新型コロナウイルス感染予防対策を徹底していくことが述べられると

ともに、歯学研究の進歩に尊い命を捧げて下さった多数の実験動物の御霊の安らかなることを願う旨の「祭文（さいもん）」が捧げられ、最後に参列者全員により献花が行われました。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



参列者に挨拶する八若研究院長



「祭文」を読み上げる船橋委員長



献花を行う八若研究院長

薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行

薬学研究院・薬学部では、11月1日（月）に本研究院並びに本学部の教育と研究のために供された実験動物の慰霊祭を臨床薬学講義室にて執り行いました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、昨年度に引き

続き式典の規模を縮小し、教員、学生など約40名の関係者が参列しました。

式典では、動物実験委員会委員長の小川美香子教授より実験に供された動物に追悼の辞が述べられ、次いで参列者全員による黙祷及び献花が行われま

した。生命科学及び薬学の教育と研究の発展のために多大な貢献をした実験動物の霊への供養がしめやかに執り行われました。

（薬学研究院・薬学部）



追悼の辞を述べる小川委員長



献花する参列者

令和3年度 薬学部成績優秀賞授与式を挙行

薬学部では、11月22日（月）に本学部会議室において、令和3年度北海道大学薬学部成績優秀賞授与式を行いました。

この賞は「GPA制度の導入に伴い、学業が優秀な学生を顕彰し、学生の向学心を喚起する」ことを目的として、

平成17年度以降に入学した学部3年次生を対象として設けられたもので、今回で15回目の授与式となります。

今年度は、学部専門科目の成績が特に優秀な3名が受賞者に選ばれました。

授与式では、薬学部教員が見守るなか、木原章雄学部長から表彰状と記念

品が1人ひとりに授与されました（1名欠席）。

今後この賞が、本学部学生の向学心をより一層喚起するものとなることを期待しています。

（薬学研究院・薬学部）



成績優秀者と木原学部長（左）



表彰状を授与される成績優秀者

工学系部局で自衛消防訓練等を実施

工学系部局では、10月29日（金）に自衛消防訓練を実施しました。

訓練にあたっては、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策のため、自衛消防隊のみで実施し、更に実働参加者を40人ほどに絞り、マスク及び手袋の着用を義務づけるなど、感染拡大防止に努めながら行われました。

訓練は、発生した地震により工学部材料・化学系棟において火災が発生したとの想定で、自衛消防隊長の佐々木博之工学系事務部長の指示のもと自衛消防隊各班が、初期消火、安全防護、負傷者救護、避難誘導などの自衛消防活動を行い、その状況を、トランシーバーを用いて隊長に報告するという内容で進められました。訓練では、トランシーバーや消火栓、ストレッチャー

など、普段使い慣れない防災・救護用具を用いながらも、大きなトラブルもなく各班が一連の作業を行い、災害時に基本となる動きの確認を行うことができました。

なお、今回の訓練は実際の避難者がいない中で行われたため、避難誘導は実際に想定した模擬的な動きとなり、他の活動においても活動を制限する避難者の人混みが無いなど、コロナ禍で実践的な訓練を実施する難しさを感じられました。

訓練終了後、隊長から講評があり、自衛消防隊は災害時でも冷静な判断と行動ができるよう、普段からの訓練が必要で、今回の訓練を一人一人が振り返り、有事の想定を自らがを行い、今回の訓練を一つのひな型として非常時は

それに基づく臨機応変な対応を行ってほしいとの感想が述べられました。

また、一度にその場に集まる人数を抑制する目的から、毎回、自衛消防訓練後に行われてきた水消火器訓練は、参加者を日本の消火器を扱い慣れない外国人を対象として自衛消防訓練とは別日に行われ、参加者は実際に放水を行って消火器の使い方を確認しました。

自衛消防訓練終了後は、アンケートを実施し、その結果を踏まえて今後の訓練のあり方を含め、工夫を凝らした訓練を実施していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、
情報科学院・情報科学研究院、
量子集積エレクトロニクス研究センター）



自衛消防隊に指示する佐々木事務部長



消火栓を用いた模擬消火の様子



救護班によるケガ人救出の様子



水消火器を噴射する留学生参加者

工学系部局で安全衛生管理講演会を開催

工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センターでは、「工学部安全の日※」関連行事として、毎年学内外から講師を招いて、安全衛生管理に係るテーマで講演会を開催しています。

本年度は、11月15日（月）にオンライン会議形式により、AGC株式会社 環境安全品質本部 環境安全部 安全衛生・保安防災プロジェクト担当の

木谷裕一氏を講師に迎え、「コンピュータの化学工場における自然災害対応」と題し、東日本大震災の際、化学工場で起こった事故とその教訓や在学中に学んでおいて欲しいことについて紹介がありました。

当日は、多くの学生及び教職員がオンラインで聴講し、講演後には予定時刻を超えて質疑応答がなされ、参加者からは有益であった旨の感想が多く寄せられ、有意義な講演会となりました。

※工学部安全の日

平成4年8月10日に工学部で発生した重大事故に鑑み、本学部における安全管理・安全教育体制の整備と安全意識の向上に資するために、制定された日。

（工学院・工学研究院・工学部、
情報科学院・情報科学研究院、
量子集積エレクトロニクス研究センター）



講演する木谷氏



講演会の様子

国際シンポジウム「International Symposium on Cocreation of Social System and Technological Innovation for Global Food Resource : 食資源をめぐる社会的制度とそれに連動する技術革新」を開催

農学研究院食水土資源グローバルセンターは、国際食資源学院や経済学研究院、公共政策大学院、ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点との共催、国際連携研究教育局（GI-CoRE）の後援により、11月17日（水）・18日（木）の2日間にわたり、学術交流会館において全編英語による国際シンポジウムをオンラインとオンサイトのハイブリット形式で開催しました。

1日目は「経済発展と食資源：格差の構造と福祉の実現」を、2日目は「各国事情と人々に寄り添う制度と技術」をテーマに掲げ、開発の歴史を長期的・学問的に検証することを目的とし、政治経済の趨勢と自然環境の変化の中で、MDGsやSDGsなどの理念や政策がなぜ、どのような経緯から必要になったのかを明らかにするべきかを

考えるための講演が行われました。

日本からは現地調査を緻密に行なっている学術研究者や、元国連大使、国際連合食糧農業機関職員など食資源問題の最前線で活躍する実務経験者が登壇しました。また、アジアとアフリカからは、研究とビジネスによる食糧安全プロジェクトや住民参加型の漁業資源管理事業、耕作地の鉍毒汚染の除去を手がける研究者が登壇しました。

これらの講演から、今後に想定される食資源をめぐる国際社会と国家、国内社会の新たな関係性、技術の在り方を描き、経済発展と公平性を実現する提言を作成しようと、総合討論では①グローバルな視点とは何か、②専制的体制とボトムアップの政策決定、どちらが有益か、③貧困と格差がなくなるにはどうすればよいか、④技術開発と

社会制度との協働とは、について議論されました。

また、17日（水）の午後には、大学院生9名が英語でポスター発表を行いました。その後、口頭発表に応募した学生の中から選抜された7名による発表が行われ、国際食資源学院の教員による審査の結果、4名が学院長賞を受賞しました。

本シンポジウムには2日間で延べ339名がオンラインとオンサイトで参加しました。オンサイトでの活発な質問とオンラインでも質問が行われ、講演と質疑応答を通じて食資源を巡る制度と技術開発の在り方に希望を託して講演会を終えました。

（農学研究院食水土資源グローバルセンター）



国際食資源学院院生によるポスター発表



参加者全員の集合写真

低温科学研究所が愛媛大学沿岸環境科学研究センターと連携協定を締結

11月5日（金）、低温科学研究所は愛媛大学沿岸環境科学研究センターと連携協定を締結しました。当協定は、これまで長年にわたり培ってきた研究協力関係を基盤として、より緊密で組織的な連携関係を構築することにより、低温科学及び環境科学分野の研究を発展させることを目的としています。

愛媛大学沿岸環境科学研究センターでは、海の仕組みやそこでの環境問題の発生メカニズムを物理学的、化学的、生物学的側面から解き明かす基礎的研究と、海を中心に全地球規模で生

物や環境試料を収集、分析を進め、内分泌攪乱物質（いわゆる環境ホルモン）などに代表される有害化学物質による汚染を研究する分野における先進的研究等により、多様化、深刻化する環境問題への対処にも取り組まれています。

また、沿岸域から黒潮域に至る亜熱帯域の海洋学的研究にも势力的に取り組まれており、低温科学研究所で行われている親潮や亜寒帯域の研究と深い関連をもって日本周辺の海洋環境の理解を進めています。

調印式には、沿岸環境科学研究センターから郭 新宇沿岸環境科学研究センター長と岩田久人愛媛大学共同利用・共同研究拠点長、当研究所から福井 学低温科学研究所長が出席し、研究交流に向けた意見交換会も実施されました。

今後、双方の研究交流がますます活発に行われることが期待されます。

（低温科学研究所）



調印後の郭センター長（左）と福井所長（右）



調印式における関係者集合写真

低温科学研究所が創立80周年記念式典・国際シンポジウムを挙

低温科学研究所は、創立80周年を迎えたことを記念し、11月25日（木）に創立80周年記念式典・国際シンポジウムを挙

行しました。記念式典は、福井 学低温科学研究所長の式辞から始まり、寶金清博総長、若土正曉名誉教授の挨拶の後、中村卓司国立極地研究所長から祝辞が述べられ、最後は古川義純名誉教授・中谷宇吉郎雪の科学館館長から「中谷宇吉郎と低温科学研究所」と題し、低温科学研究所の創立・発展に大きく貢献された中谷宇吉郎博士の功績と、低温科学研究所の歴史をテーマとした記念講演が行われました。

記念式典終了後には、国際シンポジウム（ハイブリッド形式）が行われました。創立80周年を記念して行なわれた本シンポジウムは、低温科学研究所で行われている、寒冷圏および低温環境下における諸現象に関する研究について、その最新の成果と将来の展望について議論することを目的としました。Wilhelm Hagenブレーメン大学教授の基調講演（オンライン）から始まり、世界的に著名な4名の研究者からの招待講演（オンライン）、低温科学研究所の各分野を代表する4名の研究者からの講演が行われ、参加者は様々な分野の講演を興味深く傾聴してい

ました。最後は、オンライン参加者も含め、関係者全員で写真撮影を行い、盛況のうちに終了しました。

低温科学研究所は、1941年に北海道大学初の附置研究所として設立されて以来、確固たる低温基礎科学のもと、既存の分野にとらわれない独自性のある研究を生み出す研究拠点として発展を遂げてまいりました。80周年を迎えたことをひとつのきっかけとし、新たな心持ちで、より研究・教育に邁進していきます。

（低温科学研究所）



福井低温科学研究所長による式辞



寶金総長による挨拶



古川名誉教授・雪の科学館長による記念講演



関係者集合写真

Withコロナに対応する附属図書館（本館・北図書館）の学習環境整備

附属図書館では、Withコロナに対応して、学生や教職員が安全かつ多様な形で学習や研究を進めることができる環境整備を行いました。

本館では、感染防止に配慮した仕切り付きの閲覧机と個人学習ブースを導入しました。導入した閲覧机は、飛沫拡散防止のために十分な高さのアクリルパーテーションを備えています。アクリルパーテーションは既設の閲覧机にも設置しており、館内の対面となる座席をしっかりと区切っています。個人学習ブースは、発声を伴うオンライ

ン授業にも使用可能なフルクローズ型6台と、天井等が開放されているセミクローズ型11台の合計17台を設置しました。セミクローズ型のうち1台はバリアフリー対応となっており、対応ブース内の電動上下昇降デスクは、体格差に応じて天板の高さを自由に調節することができます。

北図書館では、東棟4階の閲覧用長机をキャレルデスクに置き換え、37席の個別席を設置しました。導入したキャレルデスクは、机幅が広く前面と側面が衝立で周囲と遮られており、さら

に各デスクを離して配置することで、パーソナルスペースの確保と感染防止に対応しています。

10月下旬に導入して以来、多くの学生から好評を博しています。本館の個人学習ブースは連日ほぼ満席となり、また北図書館の個別席も高頻度で利用されており、いずれも有効に活用されています。

（附属図書館）



フルクローズ型ブース（本館）



バリアフリー対応ブース（手前）と
セミクローズ型ブース（左奥の2台）（本館）



パーテーションを備えた閲覧机（本館）



キャレルデスク個別席（北図書館）

附属図書館で「Web of Science」「EndNoteオンライン」講習会を実施

附属図書館では、11月19日（金）にクラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社から熊谷美樹氏を講師に招き、オンラインによる「Web of Science（ウェブ・オブ・サイエンス）」及び「EndNote（エンドノート）オンライン」の講習会を開催しました。

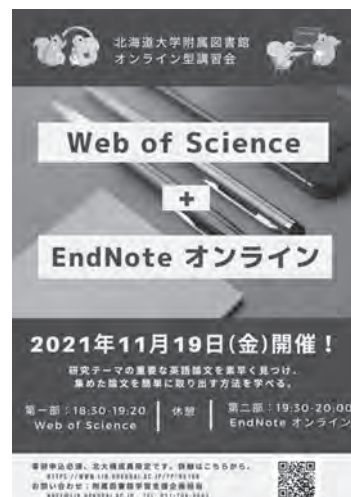
「Web of Science」は海外の論文を文系・理系を問わず、ほぼ全分野にわたって収録した基本的なデータベースであり、また「EndNoteオンライン」は学術文献の管理と論文作成に役立つ無料の文献管理ソフトという、どちらも分野を問わず利用できる有用なツールです。

講義内容を本学向けにカスタマイズしてもらったほか、授業を終えた教員や社会人学生が参加可能な18時30分からの開始とした。結果、参加者は71名

を数えました。

この度の講習会では、単なるツールとしての使い方にとどまらず、その前提にある学術文献を取り巻く現状と有効な論文の収集方法について説明があり、これらを踏まえた上での講師のデモンストレーションにより、ツールの特徴とそれを使う意義がより明確になりました。専門の講師から直接説明を聞くことができる貴重な機会ということもあって、初心者に限らず普段から使っている教員などからも質問が挙がり、多くの方から高い関心が寄せられ、学生のみならず、論文を多く執筆する教員にとっても非常に有意義な講習会となりました。

（附属図書館）



ポスター

北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭挙行

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、11月1日（月）、アグリフードセンター傍に位置する畜魂碑前において、教育・研究に供された家畜の供養のために畜魂祭を執行了いました。穏やかな秋晴れのなか、星野洋一郎農場長をはじめとする本センターの教職員、本センターを利用する農学部教員、畜産科学科の学生など約50名の関係者に参列いただきました。

農場では、飼料畑で栽培されるトウモロコシや牧草から飼料を生産して家畜・家禽を飼養し、得られる牛乳や食肉を加工して畜産製品を製造するという、自給飼料を主体とする物質循環型の持続的な家畜生産が営まれており、様々な教育・研究に利用されています。これらの活動に対して多大な貢献をした家畜・家禽に感謝し、その御霊

を供養するために、毎年畜魂祭を行っています。

当日は、大嶋栄喜動物生産技術室長による進行のもと、はじめに、中小家畜生産研究施設、酪農生産研究施設及び畜産製造施設より、家畜・家禽の飼養頭数や利用実績等の報告があり、その後、参列者全員で畜魂碑に拝礼しました。最後に、星野農場長から、日頃行われている教育・研究活動は多くの家畜の生命の上に成り立っており、そのことを常に忘れず諸活動に邁進してほしいとお話があり、参列者一同は、命の尊さを再確認し、教育・研究の推進や技術の向上に向けて思いを新たにしました。

（北方生物圏フィールド科学センター）



畜魂碑

環境健康科学研究教育センターFD「SDGsに関する勉強会」を開催

環境健康科学研究教育センターでは、11月12日（金）、横田 篤理事・副学長、出村 誠総長補佐を講師にお迎えし、SDGsに関する勉強会（FD）を開催いたしました。

本勉強会は、小笠原克彦センター長から冒頭の挨拶があり、次に横田理

事・副学長から「北大発展の歴史とSDGs」と題して、世界の課題解決に向けた北海道大学としての役割を、北大の歴史を紐解きながら講演いただきました。続いて出村総長補佐より「北大のSDGs推進と教育改革」として、学生がSDGsを学ぶ環境づくりについ

て講演いただきました。

最後に、活発な質疑応答が交わされ、大変充実したFDとなりました。

※ SDGs : Sustainable Development Goals
（持続可能な開発目標）

（環境健康科学研究教育センター）



小笠原センター長からの挨拶



横田理事・副学長による講演



出村総長補佐による講演

環境健康科学研究教育センターが公開講座「環境×健康×SDGs」を開催

環境健康科学研究教育センター（Center for Environmental and Health Sciences, 略してCEHS）では、10月26日（火）、11月5日（金）、11月9日（火）の3日間にわたって、公開講座「環境×健康×SDGs」をオンラインで開催いたしました。

本公開講座は、「世界が直面する問題の解決を目指そう」をテーマに、「環境×健康」という観点から、私たちがどうSDGsに取り組めるかを考えることを目的として開催されました。6名の講師陣が各々専門とする分野について、以下のとおり講義を行いました。

岸 玲子特別招へい教授（CEHS）
「SDGs（持続可能な開発目標）と地球環境問題：Planetary Healthと私たちの健康・安全・well-being（安寧）」
伊藤佐智子特任准教授（CEHS）
「未来をつなぐSDGs」
三上直之准教授（高等教育推進機構）
「気候危機と民主主義のイノベーション」
山内太郎教授（保健科学研究院）
「子どもたちと一緒に創る地域のサニテーション」
池田敦子教授（保健科学研究院）
「室内環境から見るSDGs」

小林澄貴特任准教授（CEHS）
「身近な生活環境とみんなの健康を考える—SDGs達成に向けたわれわれの取組みとこれから—」

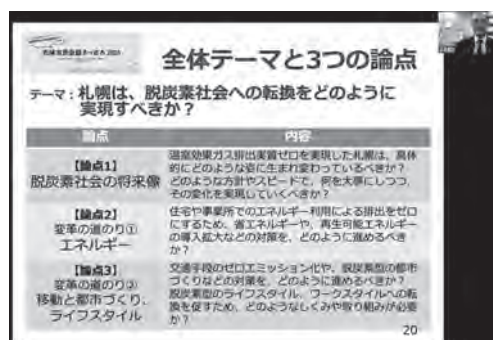
講義の後には質疑応答の時間が設けられ、参加者から多くの質問や意見が寄せられました。

本公開講座は、道民カレッジ連携講座としても提供され、市民のみなさんとSDGsについて考える大変よい機会となりました。

（環境健康科学研究教育センター）



伊藤先生による講義



三上先生による講義



山内先生による講義

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和3年11月8日）

議 案・科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業に係る部局負担額等の見直しについて
報告事項・会計検査院会計実地検査の実施について
・令和2事業年度決算剰余金の繰越承認について
・令和4年度医学部医学科の臨時定員増について

教育研究評議会（令和3年11月8日）

議 題・教員の懲戒について

教育研究評議会（令和3年11月17日）

議 題・「北海道大学大学院における研究指導体制に係る基本方針」の一部改定について
・北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の策定について
報告事項・令和2事業年度決算剰余金の繰越承認について
・令和4年度医学部医学科の臨時定員増について
・全学運用教員の措置について

役員会（令和3年11月22日）

議 案・北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の策定について
協議事項・諸規則の制定及び一部改正について
報告事項・令和3事業年度中間決算について
・共同利用・共同研究拠点に係る第3期期末評価結果及び第4期認定結果について
・「北海道大学自己点検・評価における施設及び設備に関する点検・評価項目等」の策定について
・令和3年度病院収支見込（中間決算時点）について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学農学部規程の一部を改正する規程

(令和3年11月18日海大達第151号)

大学機関別認証評価訪問調査における指摘事項を踏まえ、農学部において、全学教育科目及び専門科目の卒業に必要な修得単位数を明記することに伴い、所要の改正を行ったものです。

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
3.11.16	台北駐日経済文化代表処札幌分処 Nien, Shinn-Shyh 処長	今後の交流に関する懇談



Nien, Shinn-Shyh 台北駐日経済文化代表処札幌分処処長（左から3人目）

（国際部国際連携課）

人事

令和3年12月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 大学院工学研究院教授 低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター教授 国際連携研究教育局教授	藤 原 志 保 西 岡 純 GODINA ELENA ZINOVYEVNA	文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課企画官 低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター准教授 （採用）

新任教授紹介

令和3年12月1日付



工学研究院教授に

ふじわら しほ
藤原 志保 氏

工学系教育研究センター

生年月日

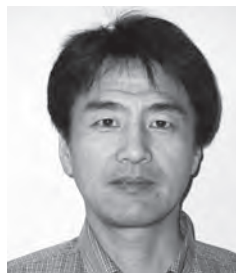
昭和50年 6 月12日

最終学歴

東北大学大学院理学研究科修士課程修了（平成12年 3 月）
修士（理学）（東北大学）

専門分野

科学技術イノベーション政策



低温科学研究所教授に

にしおか じゅん
西岡 純 氏

環オホーツク観測研究センター

生年月日

昭和45年 2 月16日

最終学歴

北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了（平成 7 年 3 月）
博士（水産科学）（北海道大学）

専門分野

化学海洋学



国際連携研究局教授に

ゴディナ エレーナ ジノヴィエヴナ
GODINA ELENA ZINOVYEVNA 氏

先住民・文化的多様性研究
グローバルステーション
（ロモノソフ・モスクワ国立大学）

生年月日

昭和16年 8 月11日

最終学歴

ロシア ロモノソフ・モスクワ国立大学大学院博士課程修了（平成13年 6 月）
生物人類学博士（ロモノソフ・モスクワ国立大学）

専門分野

生物人類学

教授 よしおか みつひろ 吉岡 充弘 氏
(享年64 (満63歳))



医学部の現職教授であられた 吉岡 充弘 先生が、令和3年9月7日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

吉岡先生は、昭和33年7月25日に北海道札幌市に生まれ、同59年3月に北海道大学医学部を卒業後、同60年6月に北海道大学医学部助手、平成元年7月に同講師、同3年7月に同助教授、同9年8月に北海道大学医学部教授に就任し、薬理学第一講座(同29年4月からは神経薬理学教室)を担当されました。

学内にあっては、大学院医学研究科

副研究科長、役員補佐、脳科学研究教育センター長、教育研究評議会評議員などを歴任し、本学及び医学部の運営に多大なる貢献をされました。特に平成29年4月から令和3年3月まで大学院医学研究院の研究院長を務め、令和元年の医学部100周年では百年記念館の落成を始めとする数々の記念事業を執り行いました。

学外にあっては、日本薬理学会理事を長く務め、平成30年3月から令和2年3月までは同学会の理事長として日本全国の薬理学の発展に貢献されました。令和3年3月には、同学会全国年会の会長を務められました。日本神経精神薬理学会においても理事、監事を長く務められ、平成19年7月には同学会全国年会の会長を務められました。また、高血圧関連疾患モデル学会会長、日本臨床薬理学会評議員、さらには日本学術会議第二部会員として、薬理学およびその関連領域の発展向上に幅広く貢献されました。

研究においては、「セロトニンが末梢・中枢神経に与える影響とその作用機序解明」を中心テーマとされていま

した。特に研究活動の初期は末梢神経に焦点を当て、数々の成果を挙げられました。ほんの一例を挙げますと、外因性セロトニンによる無呼吸反射が5-HT₃受容体の刺激による横隔神経活動の抑制に起因するものであることを見出されました。これらの成果は国内外で高い評価を受け、平成7年に第10回日本薬理学会学術奨励賞を受賞しておられます。その後中枢神経のセロトニン研究でもご活躍され、平成29年に北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞されています。

先生は、薬理学第一講座及び神経薬理学教室の教授として永年にわたり教育に従事し、その間多くの優秀な学部学生、大学院生、研究生等を輩出しました。定年まであと2年半というところで現職のまま逝去されたことは、先生にとってさぞかし無念であったであろうと推察します。先生の教育、研究、管理運営、学術交流等への長年にわたるご貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(医学院・医学研究院・医学部)

名誉教授 よしかわ としお 横川 敏雄 氏
(享年89歳)



名誉教授 横川敏雄 先生は令和3年2月4日にご逝去されました。

横川先生は昭和6年9月12日に北海道に生まれ、昭和29年3月北海道大学理学部化学科を卒業、同31年3月同大学理学研究科化学専攻修士課程を修了、同34年3月同専攻博士課程を単位取得退学し、同年4月同大学理学部助手に任用されました。昭和34年9月に

は北海道大学から理学博士の学位を授与されました。昭和36年6月から米国ミネソタ大学で1年間、シカゴ大学で2年間、在外研究に従事されました。

昭和40年4月北海道大学理学部助教授、同47年12月には同教授に昇任し化学科無機化学講座を担当、平成7年3月定年退官され、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。この間、先生は多くの学部学生、大学院生の指導・教育に当たられました。

研究面では、戦後の経済発展に重要であった金属精錬技術の基礎としての高温における酸化物融体の溶液化学研究に取り組まれました。この溶融体は自然界でマグマに見られる物質で、組成に依存して分子の重合解離の性状が変わる興味深い物質です。電気化学的測定を行い高温融体の塩基度の決定に成功し、溶融体構造に関する研究成果とともに高い評価を受け、日本金属学

会功績賞を受賞されました。さらに高温で高分解能NMRによる研究を推し進め、構造と動的挙動を解明しました。量子力学計算、分子動力学計算による研究も進められました。これらのご功績に対し日本金属学会谷川・ハリス賞を受賞されました。研究成果は著書「高温融体の化学」(アグネ技術センター)として公刊されました。

学内では学生部委員会委員、入試制度調査委員長を、学外では日本化学会理事、日本鉄鋼協会理事、学術審議会専門委員を務められました。令和元年には瑞宝中綬章を受章されました。

先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大なご貢献に感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(理学院・理学研究院・理学部)

資料

令和3年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和3年11月1日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文学部	2 (1)	1 (1)			2 (2)	48 (25)	53 (29)
教育学部		1 (1)				21 (16)	22 (17)
法学部					1	3	4
経済学部		2 (1)			3 (1)	22 (12)	27 (14)
理学部	2 (1)				27 (9)	1	30 (10)
薬学部	1				1 (1)	3	5 (1)
工学部	32 (3)				20 (4)	3 (1)	55 (8)
農学部					4 (4)		4 (4)
獣医学部					1 (1)		1 (1)
水産学部		1			3 (1)	11 (1)	15 (2)
総合教育学部	8 (5)				33 (19)		41 (24)
現代日本学プログラム課程	4 (2)				43 (27)		47 (29)
合計	49 (12)	5 (3)			138 (69)	112 (55)	304 (139)

大学院等

部局名	国費留学生				外国政府派遣留学生				私費留学生				合計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文学研究大学院	2 (1)		10 (8)	3					85 (65)		35 (24)	5 (2)	137 (100)
文学研究科												5 (3)	8 (3)
法学研究科			1 (1)	1					30 (19)		10 (3)	15 (10)	20 (10)
情報科学研究院	3		7 (3)				2 (1)		28 (6)		38 (12)	2	80 (22)
情報科学研究科				1								8 (3)	9 (3)
水産科学研究院			3 (1)				1	3	15 (9)		17 (6)		39 (16)
水産科学研究科				3 (3)								1	4 (3)
環境科学研究院	7 (2)		17 (6)				1 (1)		72 (33)		70 (27)	3 (2)	170 (71)
地理環境科学研究院	1		6 (4)						25 (9)		23 (7)	1	21 (12)
地理環境科学研究科				3 (2)								18 (10)	56 (20)
理学研究科												7 (3)	10 (4)
農学研究科	12 (11)		20 (10)				2 (1)		31 (13)		34 (18)	2 (2)	101 (55)
農学研究科				3 (3)								13 (8)	16 (11)
先端生命科学研究所	4		27 (14)				1 (1)		34 (12)		47 (15)	2	115 (42)
先端生命科学学				2 (1)								1	3 (1)
国際広報メディア・観光学院	2 (1)		4 (3)						31 (28)		15 (11)		48 (40)
メディア・コミュニケーション研究				1					75 (55)		22 (15)	2 (1)	105 (75)
メディア・コミュニケーション研究												31 (22)	32 (22)
保健健康科学研究院	1 (1)								16 (7)		12 (7)		29 (15)
保健健康科学研究科				2 (2)								12 (4)	14 (6)
工学研究科	22 (8)		27 (5)				5 (2)	4 (1)	92 (18)		76 (24)	7 (4)	233 (62)
工学研究科				2 (1)								31 (6)	33 (7)
総合化学	1 (1)		5 (3)				4 (2)	3 (1)	40 (10)		64 (24)	3 (2)	120 (43)
経済学	3 (2)		4 (1)						62 (36)		15 (6)		84 (45)
医学研究科			9 (6)				2 (2)		5 (3)		34 (17)	1 (1)	51 (29)
医学研究科												12 (8)	12 (8)
歯学研究科			1 (1)								27 (15)		28 (16)
獣医学研究科			11 (4)								8 (4)		19 (8)
獣医学研究科												4	4
獣医学研究科											1 (1)		1 (1)
獣医学研究科									3		5		8
国際感染症学			16 (9)								13 (4)		29 (13)
国際感染症学	1 (1)		3 (2)						7 (5)		8 (5)		19 (13)
公共政策学教育院										20 (9)			20 (9)
公共政策学連携研究部												6 (4)	6 (4)
人獣共通感染症国際共同研究所				2								1 (1)	3 (1)
量子集積エレクトロニクス研究センター												1	1
アイヌ先住民研究センター				1									1
電子科学研究所												1 (1)	1 (1)
遺伝子病制御研究所												4 (3)	4 (3)
触媒科学研究所												1	1
スラブ・ユーラシア研究センター												1 (1)	1 (1)
情報基盤センター												4 (1)	4 (1)
総合博物館												1	1
北方生物園フィールド科学センター				1								6 (1)	7 (1)
高等教育推進機構				1 (1)								36 (23)	37 (24)
合計	59 (28)	0	173 (82)	29 (14)	0	0	18 (10)	10 (2)	651 (328)	20 (9)	603 (258)	253 (129)	1,816 (860)

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	16 (5)	14 (10)	16 (7)	18 (11)	64 (33)

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生数	大学院留学生			研究生等	日本語研修生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生 （「留学」以外）	留学生及び外国人学生 総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
187 (81)	710 (356)	20 (9)	794 (350)	409 (203)	64 (33)	2,184 (1,032)	68 (37)	2,252 (1,069)

*（ ）内は女子を内数で示す

*修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む

*研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

（学務部国際交流課）

令和3年度国別外国人留学生数

令和3年11月1日現在

地域	国 (地名)	国費留学生							外国政府派遣留学生							私費留学生										総計	
		学部		日本語・ 日本文化 研修生	日本語 研修生	大学院			学部	修士	専門職 学位	博士	特別 研究学生	小計	学部		日本語・ 日本文化 研修生	日本語 研修生	大学院			特別 研究学生	特別 聴講学生	小計			
		学 士	研 究 生			修 士	専 門 職 学 位	博 士							研 究 生	学 士			研 究 生	修 士	専 門 職 学 位				博 士		研 究 生
アジア	インド	1		1	2	7(3)		9(4)	20(7)							1(1)				7(3)		19(9)	1	2(1)	1	31(14)	51(21)
	インドネシア	1(1)				9(8)		11(6)	21(15)							5(4)				4(2)		16(4)	2		4(3)	31(13)	52(28)
	カンボジア	1				1(1)		1	4(1)											3		5(2)				8(2)	12(3)
	シンガポール							1(1)	1(1)							2							1			5	6(1)
	スリランカ			1(1)		2(1)		2(1)	5(3)													6(4)			1(1)	7(5)	12(8)
	タイ	3(3)		2(1)	1			9(6)	15(10)											2(1)				2(2)		71(21)	107(27)
	台湾																									5(2)	
	大韓民国	31(3)		1				3(3)	1	36(6)																	
	中華人民共和国			1		3(3)		31(12)	7(4)	42(19)			18(10)	10(2)	28(12)	42(17)	1	3	4(1)	1(1)	13(7)		20(11)	1	2(1)	6(3)	54(29)
	ネパール					1		4(2)	5(2)																		54(29)
	パキスタン					2		1	1(1)	4(1)						2(1)										2(1)	6(2)
	バングラデシュ					5(1)		17(5)		22(6)									1(1)		14(6)	1				16(7)	38(13)
	フィリピン	1(1)		1	2	5(1)		5(1)	1	10(2)						2					8(2)					10(2)	20(4)
	ブルネイ					1		1	2												1(1)					1(1)	3(1)
	ベトナム	1(1)			1	2	9(4)		1	14(5)						3(1)			2(1)	1(1)	11(3)					17(6)	31(11)
	マレーシア			1(1)	2(1)	5(3)		8(5)								2(1)			1(1)	1(1)	8(4)				1(1)	13(8)	21(13)
	ミャンマー			2(2)		1(1)		5(4)	1(1)	9(8)						1(1)			3		2(2)	1				7(3)	16(11)
	モンゴル	1	1			3(3)		5(3)								2(2)				2(1)		7(4)				12(8)	17(11)
小計(17カ国1地域)	40(9)	1	8(4)	5(1)	39(19)		117(55)	13(6)	223(94)			18(10)	10(2)	28(12)	90(40)	101(53)	10(2)	9(6)	4(3)	63(32)	18(8)	537(240)	184(90)	11(5)	18(13)	1,688(784)	1,894(800)
中東	アフガニスタン					1(1)		1(1)		1(1)																	1(1)
	イスラエル			1																						1	1
	イラン	1(1)								1(1)																1	2(1)
	クウェート																									1	1
	サウジアラビア																									1	1
	トルコ			1	1(1)			1(1)	3(2)												5					5	5
	ヨルダン																				1(1)				1(1)	4(3)	
	レバノン					1(1)			1(1)												1					1	1
	小計(8カ国)	1(1)		2	1(1)	1(1)		2(2)	7(5)																	9(1)	16(6)
	アンゴラ					1		1																		1	1
	ウガンダ	1						1																		1	1
	エジプト							4(4)	1(1)	5(5)											4(2)		1		5(2)	10(7)	
	エチオピア							3		3										1		1(1)				2(1)	5(1)
	ガーナ			1(1)				1	1	2(1)						1					1	1				3	5(1)
	カーボヴェルデ							1		1																1	2
	ガンビア																			1						1	1
	ケニア								1(1)	1(1)					2(1)							1			3(1)	4(2)	
	コンゴ民主共和国							1		1											2					2	3
ギンビア				1(1)			4(2)	2(1)	7(4)									2		9(1)	1			12(1)	19(5)		
ジンバブエ																				1	1				2	2	
スーダン							1(1)		1(1)																	1(1)	1(1)
タンザニア							1		1											2(2)					2(2)	3(2)	
チュニジア							1(1)		1(1)																	1(1)	1(1)
ナイジェリア	1			3(1)			3	1	8(1)									1		12(2)	2(1)			4(1)	19(4)	27(5)	
ナミビア															1(1)											1(1)	1(1)
ブルキナファソ															1(1)											1	1
ベナン		1							1																	1	1
マダガスカル							2(1)		2(1)																	1(1)	2(1)
マラウイ							1		1																	1	1
南アフリカ					1																					2	3
南スーダン					1				1																	1	2
モザンビーク									1	2											1(1)					1(1)	3(3)
モーリシャス				2(2)					2(2)																	1(1)	3(3)
モロッコ				1(1)																	1(1)					1(1)	1(1)
リベリア									1(1)						1						1(1)					2(1)	3(2)
小計(26カ国)	2	1		4(4)	6(2)	23(9)	8(3)	44(18)							4(2)	1			7		38(12)	6(1)	1	4(1)	6(16)	165(34)	
大洋州	オーストラリア					1(1)		2(2)	3(3)									1								1	4(3)
	トンガ					1(1)			1(1)																		1(1)
	ニュージーランド															1										1	1
	バプアニューギニア					1(1)			1(1)																		1(1)
北米	フィジー					1(1)			1(1)																	2	3(1)
	小計(5カ国)					4(4)		2(2)	6(6)									1		1		1			4	10(6)	
	アメリカ合衆国	2	1(1)		1(1)			4(2)	1	9(4)						1(1)			6(3)	1	3(1)	1(1)			1(1)	23(12)	32(16)
	カナダ	1			1				2							3(2)				1		1			1	6(2)	8(2)
中米	小計(2カ国)	3	1(1)		2(1)			4(2)	1	11(4)						14(8)			6(3)	2	4(1)	1(1)			2(1)	29(14)	40(18)
	アルゼンチン					1		1(1)	2(1)																	2(1)	2(1)
	エクアドル							1(1)	1(1)																	1(1)	1(1)
	グアテマラ				1	1		2(1)	4(1)							1(1)										4(1)	4(1)
中南米	コロンビア							1(1)	1(1)																	1(1)	1(1)
	ジャマイカ					1		1																		1	1
	ニカラグア					1		1																		1	1
	ハイチ					1		1																		1	1
	バルバドス															1(1)									1(1)	1(1)	
	ブラジル	1(1)		3(1)	1	1		1	7(2)						1(1)					1	1			3(1)	10(3)		
	ベネズエラ	1(1)							1(1)																1	1	
	ペルー							1	1(1)	2(1)																2(1)	2(1)
	ホンジュラス					1			1																		

北大時報掲載記事事項一覧（令和3年掲載分）

表紙

- 1月号 ・2020年度DEMOLA（デモラ）HOKKAIDOのファイナルデモンストレーションを開催
- 2月号 ・大学入学共通テスト第1日程初日の様子
- 3月号 ・読売新聞と北海道大学の協定
- 4月号 ・令和3年度入学式及び令和2年度入学者入学式の挙行
- 5月号 ・人獣共通感染症国際共同研究所を設置
- 6月号 ・DEMOLA HOKKAIDO「キングラン北海道チーム」がテレビで紹介
- 7月号 ・「はやぶさ2」が持ち帰った「リュウグウ」のサンプルが本学に到着
- 8月号 ・鈴木直道北海道知事が北海道大学病院を訪問
- 9月号 ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタに研究者17名が参加
- 10月号 ・特任教授 リスト・ベンジャミン 氏 2021年ノーベル化学賞受賞決定
- 11月号 ・学生によるミュージアムグッズの企画開発－サコッシュ2点、トートバッグ、豆皿－
- 12月号 ・第35回ビジネスEXPO2021に出展

裏表紙

- 1月号 ・キャンパス風景⑩ 中央ローン（北8条西6丁目付近）
- 2月号 ・キャンパス風景⑪ ポプラ並木（北11条西10丁目付近）
- 3月号 ・キャンパス風景⑫ 事務局（北8条西5丁目）
- 4月号 ・キャンパス風景⑬ 北大生協会館前
- 5月号 ・キャンパス風景⑭ メインストリート（北9条西7丁目付近）
- 6月号 ・キャンパス風景⑮ インフォメーションセンターエルの森（北8条西5丁目付近）
- 7月号 ・キャンパス風景⑯ 大野池（北12条西8丁目付近）
- 8月号 ・キャンパス風景⑰ 総合博物館（北10条西8丁目付近）
- 9月号 ・キャンパス風景⑱ 保健センター（北16条西7丁目）
- 10月号 ・キャンパス風景⑲ 跨道橋（北7条西10丁目）
- 11月号 ・キャンパス風景⑳ イチョウ並木（北区北13条西5～7丁目）
- 12月号 ・キャンパス風景㉑ 北海道大学病院（北14条西5丁目）

総長告辞等

- 1月号 ・年頭の挨拶
- 4月号 ・告示（学士学位授与式、入学式）

全学ニュース

- 1月号
 - ・総長年頭挨拶
 - ・大塚榮子名誉教授が日本学士院会員に選定
 - ・アジア航測株式会社に紺綬褒章を授与
 - ・北大フロンティア基金
 - ・令和2年度教員免許状更新講習を開催
 - ・高等教育研修センターにて研修会を開催
 - ・新渡戸カレッジ基礎・オナーズプログラム大学院教育コース2020年度メンターフォーラムを開催
 - ・令和2年度北海道留学生交流推進協議会総会をオンラインにて開催
 - ・2020年度DEMOLA（デモラ）HOKKAIDO ファイナルデモンストレーションを開催
 - ・nano tech 2021に本学シーズを初出展
 - ・「北海道大学 新技術説明会」を開催
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）の3グローバルステーションが外部評価を実施
 - ・博士人材と企業の情報交換会 第44回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催
 - ・「異分野meetup week 2020」を開催
 - ・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークシンポジウムを開催
- 2月号
 - ・大学入学共通テストの実施
 - ・北海道大学一般選抜の志願状況
 - ・総合型選抜合格者の発表
 - ・国際総合入試合格者の発表
 - ・北大フロンティア基金
 - ・令和2年度第2回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催

- ・第23回北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウムを開催
 - ・分科会1 The 9th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering
 - ・分科会2 “Workshop in the field of Nuclear Thermal-hydraulics”Joint symposium between SNU-HU 2020
 - ・分科会3 Reinterpretating Korean Wave in Japan: from Contemporary and Global Perspectives
 - ・分科会4 HU-SNU-NTNU-KU 2020 joint session Future course of HU-SNU-NTNU-KU joint symposium and research collaboration
 - ・分科会5 Current topics of dentistry
 - ・大学入学共通テスト業務に携わる教職員のための未就学児一時保育を実施
- 3月号**
- ・北海道大学一般選抜（前期日程・後期日程）及び私費外国人留学生（学部）入試の実施と合格者の発表
 - ・北海道大学COI『食と健康の達人』拠点の岩見沢市における低出生体重児減のプロジェクトで第3回日本オープンイノベーション大賞 日本学術会議会長賞を受賞
 - ・読売新聞北海道支社と包括連携協定を締結
 - ・災害用無線機設置・通信訓練を実施
 - ・災害等危機対策本部設置訓練を実施
 - ・Academic Fantasia 2月は池田貴子 特任助教（CoSTEP）が札幌日本大学高等学校の生徒に向けてオンライン講義を実施
 - ・北大フロンティア基金
 - ・令和2年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙行
 - ・総長と学生とのオンライン対話企画「資金総長に伝えたい！」を開催
 - ・令和2年度小島三司奨学金受給者の決定
 - ・北海道との共催により「SDGs×北海道 交流セミナー2021」をオンライン開催
 - ・「SDGs×北海道 交流セミナー2021ポスターセッション」にDEMOLA HOKKAIDOが出展
 - ・DEMOLA HOKKAIDOの紹介動画・CMを制作
 - ・第3回ICReDD国際シンポジウムを開催
 - ・日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点のロゴを作成
 - ・第3回日露産官学連携実務者会議を開催
 - ・本学資金総長がモスクワ国立大学サドーヴニチ総長、新潟大学牛木学長とオンライン懇談を実施・2021年9月の日露大学協会総会開催方針について等合意
 - ・「次世代研究者のためのSDGsセミナー」を開催
 - ・博士人材と企業の情報交換会 第45回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催
- 4月号**
- ・令和2年度学位記授与式の挙行
 - ・令和3年度入学者入学式及び令和2年度入学者入学式の挙行
 - ・令和2年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行
 - ・名誉教授に14氏
 - ・令和2年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行
 - ・令和3年度北海道大学の予算
 - ・北海道と包括連携協定を締結
 - ・Academic Fantasia 3月は8名の研究者が高校生に向けた講義を実施
 - ・研究者のためのスキルアップセミナー⑭「オンラインコミュニケーションのかくし味」を開催
 - ・研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」を開設
 - ・北大フロンティア基金
 - ・「みらいIT人財」の推進に関する連携協定締結式を実施
 - ・新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙行
 - ・パイプオルガンの修理を実施
 - ・令和2年度北海道大学大塚賞受賞者の決定
 - ・令和2年度北海道大学クラーク賞受賞者の決定
 - ・令和2年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—被表彰者の決定
 - ・令和2年度北海道大学企業研究セミナー（オンライン）を開催
 - ・第8回北海道大学オープンファシリティシンポジウムをオンラインで開催
 - ・「onちゃん卒業式」を執り行いました
 - ・スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業中間評価で「A」評価を獲得
 - ・令和2年度北米ポートランドオフィス事業『English through Sustainability』に学生3名が参加
 - ・「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」によるITオンライン日本留学フェアを開催
 - ・「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」によるオンライン日本留学フェアを開催
 - ・北海道大学交流デー（オックスフォード大学）を開催
 - ・サブサハラ・アフリカを対象に理工・農学系プログラムへの留学広報のウェビナーを開催
 - ・第15回ステークホルダーミーティングをオンライン開催
 - ・函館地区キャンパスマスタープラン説明会を開催
 - ・オンラインセミナー「Networking & Collaboration in Global Science」を開催
 - ・中高生対象オンラインイベント「大学生の24時間シリーズ」開催

- 5月号**
- ・春の叙勲に本学から5氏
 - ・One Healthリサーチセンターを共同プロジェクト拠点として認定
 - ・「北海道・札幌マラソンフェスティバル 2021」ランナーがキャンパスを疾走
 - ・「記者懇談会」を開催
 - ・第1回 定例記者会見を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行
 - ・「北海道大学レーン記念賞」に寄附
 - ・寶金総長が清華大学110周年記念式典・世界大学学長フォーラムにオンライン出席
 - ・サブサハラ・アフリカ向けの「大学検索データ・ポータル」の開設
- 6月号**
- ・第2回 定例記者会見を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・令和3年度新渡戸カレッジ入校式を開催
 - ・2020年度春季「国際インターンシップ」成果報告会を開催
 - ・DEMOLA HOKKAIDO「キングラン北海道チーム」がテレビで紹介
 - ・円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家養成及び語学教育における日露連携」を開催
- 7月号**
- ・「はやぶさ2」が持ち帰った「リュウグウ」のサンプルが本学に到着
 - ・第3回 定例記者会見を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・令和3年度第1回新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
 - ・学生に対して食料支援を実施
 - ・令和3年度北海道大学レーン記念賞受賞者を決定
 - ・令和3年度北海道大学宮澤記念賞受賞者を決定
 - ・「北大牛乳」が札幌市内で、新ブランドとして展開中
 - ・MIRAI Research & Innovation Week が開催
 - ・寶金総長、横田理事・副学長が、IUCA 2021 Presidents' Meetingに出席
 - ・オンライン配信「KNIT a Network! ロールモデル座談会大塚賞スペシャル」を開催
- 8月号**
- ・寶金総長がウボボイを訪問
 - ・第4回 定例記者会見を開催
 - ・サステイナビリティ推進機構設置に伴う記者会見を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・令和3年度北海道大学公開講座（全学企画）「備える：ウィズコロナの時代をどう生きるか」を開催
 - ・令和3年度出入国管理制度説明会をWebexオンライン会議システムで実施
 - ・令和3年度北海道大学新渡戸賞受賞者を決定
 - ・DEMOLA HOKKAIDO「北大チーム」がテレビで紹介
 - ・「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」設立総会に参加
 - ・「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」によるオンライン日本留学フェアを開催
 - ・The Japan-UK higher education dialogue 2021に横田理事・副学長が出席
 - ・令和3年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催
- 9月号**
- ・教育関係共同利用拠点に2拠点が再認定
 - ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタに研究者17名が参加
 - ・北海道大学アンバサダー チャールズ S. ヴァイラッパン教授が令和3年度外務大臣表彰を受賞
 - ・令和3年度教員免許状更新講習を開催
 - ・令和3年度学生相談講演会をオンラインにて実施
 - ・令和3年度北海道大学入試説明会をオンラインにて実施
 - ・SCSK北海道株式会社と包括連携協定を締結
 - ・北大マルシェCafé&Laboが大丸札幌店催事「がんばろう北海道！フェア 協力：北洋銀行」に出展
 - ・北大フロンティア基金
- 10月号**
- ・特任教授 リスト・ベンジャミン 氏 2021年ノーベル化学賞受賞決定
 - ・株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント・株式会社クボタと3者連携協定の調印式を実施～北海道ボールパークFビレッジ 2023年開業の農園エリアに農業学習施設を設置～
 - ・新型コロナワクチン大学拠点接種が終了
 - ・「北海道大学ホームカミングデー2021」をオンラインで開催
 - ・第5回 定例記者会見を開催
 - ・令和3年度小島三司奨学金受給者の決定
 - ・令和3年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—被表彰者の決定
 - ・広域エリア 統合プレインキュベーション施設 HX〈エイチクロス〉始動～北海道の大学等発スタートアップ支援の中核拠点へ～
 - ・北大認定商品として新たにお漬物「まるごと道産素材」が誕生

- ・「北海道大学 新技術説明会」を開催
- ・サブサハラ・アフリカ地域向けにオンライン「日本留学フェア」を開催
- ・ボゴール農業大学学生団体主催イベントに学生5名が参加
- ・第3回日露大学協会総会に参加
- ・アートプロジェクト「アノオンシツ」が橋の思い出を募集中～オンライン展示「札幌の木、北海道の椅子展 2021」も開催中～
- ・博士人材と企業の情報交換会 第46回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催
- ・サステナビリティ推進機構の設置を記念したキックオフセミナー「サステナビリティと北海道大学」をオンライン開催
- ・北大フロンティア基金

11月号

- ・秋の叙勲に本学から5氏
- ・第6回 定例記者会見を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌開成中等教育学校に向けて5名の研究者が講義を実施
- ・北大フロンティア基金
- ・アジア航測株式会社に紺綬褒章が授与
- ・谷澤敏允氏と谷澤和子氏に紺綬褒章が授与
- ・衛生管理者連絡会を開催
- ・寶金清博総長が新渡戸カレッジで特別講演
- ・令和3年度オープンキャンパスをオンラインにて開催
- ・令和3年度北海道大学進学相談会をオンラインにて開催
- ・高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
- ・2021年度夏季国際インターンシップ全学成果報告会を開催
- ・BioJapan2021地域バイオコミュニティ認定授与式にて内閣府より本学に認定証トロフィーが授与
- ・ウェビナー「日本研究オープンハウス」を開催
- ・ICReDD新棟 利用者への設計概要説明会をオンラインにて開催
- ・異分野meetup 2021を開催

12月号

- ・令和3年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
- ・大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定
- ・フロンティア入試合格者の発表
- ・国際総合入試合格者の発表
- ・帰国子女入試合格者の発表
- ・第7回 定例記者会見を開催
- ・ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の制定について記者会見を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌南高校、札幌北斗高校にて7名の研究者が講義を実施
- ・株式会社ムトウに紺綬褒章が授与
- ・北大フロンティア基金
- ・令和3年度「寶金総長に伝えたい!」を開催
- ・読売新聞社と「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム」を開催
- ・寶金総長がベトナムのファム・ミン・チン首相及び閣僚と会談
- ・国際シンポジウム“Climate & Cities Conference”にて、“Collaboration between Universities and the Region”を開催、さらに関連イベントにも参加
- ・横田理事・副学長と恵 淑萍中国北京オフィス所長が第12回日中学長会議に出席
- ・韓国留学促進イベント「韓国を学ぶ」を開催
- ・情報セキュリティセミナーを開催
- ・古河記念講堂のパープル・ライトアップを実施
- ・高橋文部科学大臣政務官が本学の研究施設を視察
- ・総長との保護者懇談会をオンラインにて開催
- ・第35回ビジネスEXPO2021に出展
- ・令和3年度北海道地方発明表彰を受賞

部 局 ニ ュ ー ス

1月号

- ・水産科学研究院が東通村と連携協定を締結
- ・文学研究院FD「ハラスメントの防止等に関する研修」を開催
- ・経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
- ・地域経済経営ネットワーク研究センターシンポジウム「環境問題を解決するーナッジ政策の可能性ー」を開催
- ・歯学研究院で「動物供養祭」を举行
- ・令和2年度 薬学部成績優秀賞授与式を举行

- ・工学系部局で「こころの健康セミナー」を開催
- ・令和2年度第1回農学研究院FD研修会を開催
- ・北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
- ・保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
- 2月号**
 - ・第15回医学研究院連携研究センター研究成果発表会をオンライン開催
 - ・脳科学研究教育センターオンライン研究発表会の開催
- 3月号**
 - ・アイヌ・先住民研究センターFD「学生を指導する際に問題となるハラスメント」を開催
 - ・北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（学芸員カプロ）報告会 プレゼンテーション+シンポジウム「ミュージアムの誕生と成長」
 - ・公共政策大学院が「創立15周年記念オンラインイベント・同窓会」を開催
 - ・令和3年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行
 - ・北海道ワイン教育研究拠点設置に向けた寄附講座「北海道ワインのヌーヴェルヴァーグ研究室」を開設
 - ・観光学高等研究センターがオンライン公開講座「観光現場の挑戦」を開催
 - ・令和2年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催
 - ・先端生命科学研究院でFDSD研修会「総会2020」を開催
 - ・資金総長と先端生命科学研究院所属教職員との意見交換会を開催
 - ・資金総長と理学研究院所属教職員との意見交換会を開催
- 4月号**
 - ・医学研究院でコロナ禍における市民への成果発表：学内記者会見「ゲルでがんの親分を見つけ出す」の実施
 - ・教育学院・中国人民大学教育学院とコチューテルに関する覚書を締結
 - ・経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催
 - ・国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学との教育・研究交流「TLLPスタディセッション・セミナー」を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院主催多層言語環境研究国際シンポジウム「多様性と言語」が終了
 - ・附属図書館でWEB企画展示「北の動物たち-描かれた海獣-」を開催
 - ・旧病理学第一講座関係資料を大学文書館で受贈
 - ・公共政策学連携研究部及び教育部と津別町が包括的連携協定を締結
 - ・北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム3期生修了式
 - ・「省エネアクションプラン」照明LED化を実施（先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター）
 - ・総合博物館で第13回「卒論ポスター発表会」を開催
 - ・学生によるミュージアムグッズの企画開発－植物・海藻標本クリアカード、北大総合博物館 建物の四季ピンバッジ－
 - ・医学部が最終講義・退職記念式典を挙行
 - ・医学研究院医理工学グローバルセンターが第3回分子医理工学サマースクール及び第7回医学物理サマースクールを開催
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第17期修了生に修了証書授与
 - ・令和2年度保健科学院長賞及び保健科学院修士課程研究発表賞授与式を挙行
 - ・令和2年度医学部保健学科卒業研究優秀表彰授与式を挙行
- 5月号**
 - ・「南極学術探検隊樺太犬訓練所」（稚内）の写真画像を大学文書館で受贈
 - ・サッカー部関係資料を大学文書館で受贈
 - ・工学研究院・情報科学研究院・化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）合同シンポジウムを開催
 - ・令和2年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催
 - ・人獣共通感染症国際共同研究所を設置
 - ・北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第1期生採用式
 - ・生命科学院 博士後期課程科目「少人数討論型育成プログラム」（北大帝人ブレインストーミングワークショップ）を実施
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙行
- 6月号**
 - ・真のDX（デジタルトランスフォーメーション）を学ぶプロジェクト始動
 - ・令和3年4月 北海道大学病院内に「医療・ヘルスサイエンス研究開発機構」を発足
- 7月号**
 - ・文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催
 - ・経済学部が成績優秀者表彰式を挙行
 - ・薬学研究院 原島秀吉教授が国際薬剤師・薬学連合（FIP）のHøst Madsen Medalを受賞
 - ・附属図書館職員が令和3年度国立大学図書館協会賞を受賞
 - ・2年次学部学科移行生のコミュニケーション環境整備としてオンライン交流・歓迎会を実施
 - ・理学研究院・先端生命科学研究院合同FD研修「米国での大学院システム」について
 - ・総合博物館で2020年度ミュージアムマイスター認定式を開催
- 8月号**
 - ・2021年度夏期国際シンポジウム「不確実性の時代のスラブ・ユーラシア研究：対話と再検討」を開催
 - ・北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム3期生修了式（6月期）を開催
 - ・北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
 - ・UR都市機構と連携協定を締結
 - ・鈴木直道北海道知事が北海道大学病院を訪問
 - ・工学研究院産学連携強化説明会を開催

- ・株式会社クレスコ 代表取締役社長執行役員 根元浩幸氏に感謝状を贈呈
 - ・「北海道ワインのヌーヴェルヴァーグ研究室」開設記念式典及びセミナーを開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院で公開講座「関西弁の音声学」を開催
 - ・子育て世代支援スペース「北水キッズクラブ」を設置
 - ・賞味期限が近づいた「災害備蓄用保存パン」を配付
 - ・低温科学研究所が中谷宇吉郎 雪の科学館と連携協定を締結
 - ・附属図書館でMendeleyオンライン講習会を開催
 - ・「ようこそ北大へ！新生活を彩る、役に立つ、やる気がでる！おすすめ本」図書展示を開催
- 9月号**
- ・公共政策大学院が「HOPS地方議員・公務員向けサマースクール2021」を開催～新型コロナ下の地域経営：脱出の糸口をどう見いだすか？～
 - ・スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催
 - ・水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」 「みんな意外と分かっている！海岸動物の社会関係」を開催
- 10月号**
- ・動物慰霊式を挙行
 - ・The 5th FHS International Conference（第5回保健科学研究院国際シンポジウム）を開催
 - ・令和3年度 地球環境科学研究院 公開講座「環境との調和：化学を通して見える世界」が終了
 - ・人獣共通感染症国際共同研究所が国際シンポジウムをオンライン開催～第9回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議～
 - ・令和3年度北海道大学広域複合災害研究センター・読売新聞北海道支社共催防災シンポジウム「冬の北海道の広域複合災害」を開催
 - ・環境健康科学研究教育センター岸 玲子特別招へい教授が国際環境疫学会のJohn Goldsmith賞を受賞
- 11月号**
- ・文学研究院FD「アイヌ民族に関する理解と差別・ハラスメントの予防のために～マイノリティー・抑圧・差別に見える化する～」を開催
 - ・教育学院・教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2021 I及びIIを開催
 - ・理学研究院が上富良野町と「相互協力協定」を締結
 - ・北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム8期生採用式を開催
 - ・医学研究院・化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）合同シンポジウムを開催
 - ・保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
 - ・令和3年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス！」が終了
 - ・国際広報メディア・観光学院が教育・研究交流を目的に「TLLPスタディセッション」を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院で公開講座「教育者・富所広吉の事蹟を追う」を開催
 - ・防火・防災訓練を実施
 - ・獣医学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所で動物慰霊式を挙行
 - ・動物慰霊式を挙行
 - ・総合博物館による動画制作と公開（1）
 - ・総合博物館による動画制作と公開（2）
 - ・学生によるミュージアムグッズの企画開発－トートバッグ、サコッシュ2点、豆皿－
 - ・スラブ・ユーラシア研究センターで2021年度公開講座「メロドラマするロシア：アジアとの比較から考える大衆文化の想像力」を開催
 - ・低温科学研究所が「サイエンスレクチャー2021 宇宙にも氷があるって知ってた？～暗黒星雲に浮かぶ氷微粒子とその役割～」を開催
 - ・低温科学研究所が山口大学中高温微生物研究センターと連携協定を締結
 - ・人獣共通感染症国際共同研究所が山口大学中高温微生物研究センターと連携協定を締結
 - ・第19回 脳科学研究教育センターシンポジウム「記憶・睡眠研究の最前線」を開催
- 12月号**
- ・文学研究院FD「COVID-19の教訓から何を学ぶべきか」を開催
 - ・公共政策大学院がオンラインセミナー「カーボンニュートラルとその先に描く北海道の暮らし」を開催
 - ・経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
 - ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催
 - ・理学系団地に技術部機械工作室製の足踏み式手指アルコール消毒器を設置第16回医学研究院連携研究センター研究成果発表会をオンライン開催
 - ・医学研究院医理工学グローバルセンターが第5回医理工学院学生研究発表会／第5回企業との交流会をオンラインで開催
 - ・医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
 - ・歯学研究院で「動物供養祭」を挙行
 - ・薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行
 - ・令和3年度 薬学部成績優秀賞授与式を挙行
 - ・工学系部局で自衛消防訓練等を実施
 - ・工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
 - ・国際シンポジウム「International Symposium on Cocreation of Social System and Technological Innovation for Global Food Resource：食資源をめぐる社会的制度とそれに連動する技術革新」を開催
 - ・低温科学研究所が愛媛大学沿岸環境科学研究センターと連携協定を締結

- ・低温科学研究所が創立80周年記念式典・国際シンポジウムを挙
- ・Withコロナに対応する附属図書館（本館・北図書館）の学習環境整備
- ・附属図書館で「Web of Science」「EndNoteオンライン」講習会を実施
- ・北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭挙
- ・環境健康科学研究教育センターFD「SDGsに関する勉強会」を開催
- ・環境健康科学研究教育センターが公開講座「環境×健康×SDGs」を開催

お知らせ

- 2月号 ・過半数代表候補者の決定
- 4月号 ・令和3年度人間ドック・特定健康診査の実施について
- 7月号 ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和2年度）」の概要について
- ・令和2年度北海道大学外国人留学生後援会の決算
- 10月号 ・医療費通知事業の実施

寄稿等

- 3月号 ・定年を迎えるにあたって

博士学位記授与

- 1月号 ・課程博士37人，論文博士4人
- 4月号 ・課程博士275人，論文博士16人
- 7月号 ・課程博士31人，論文博士8人
- 10月号 ・課程博士100人，論文博士10人

諸会議の開催状況（令和2年12月～令和3年11月分掲載）

学内規程

- 1月号 ・北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学政府調達規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学文書館公文書室利用等規程の一部を改正する規程
- 2月号 ・北海道大学中国医学研修員規程を廃止する規程
- ・北海道大学中国・人材育成事業研修員規程を廃止する規程
- 4月号 ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学災害等危機対策規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学職員育児休業・介護休業等規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員表彰規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
- ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学経営協議会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学評価規程等の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学総長室規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学監事監査規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター企画運営会議規程の一部を改正する規程

- ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学通則の一部を改正する規則
- ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
- ・北海道大学の第1年次の学生に係る履修、修学等に関する規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学の学士課程における授業科目の成績の評価に関する規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学文学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学法学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学理学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学工学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学農学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学専門横断科目規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員育児休業・介護休業等規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員表彰規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学契約規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学旅費規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学旅費規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学病院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学獣医学部・帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程協議会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院環境科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院経済学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院医学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院歯学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院獣医学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院医理工学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院国際感染症学院規程の一部を改正する規程

- ・北海道大学大学院国際食資源学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院文学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院情報科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学低温科学研究所規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター共同利用・共同研究拠点運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター共同利用・共同研究拠点共同研究委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学国際連携研究教育局規程の一部を改正する規程
- 5月号**
 - ・国立大学法人北海道大学校友会・同窓会連携委員会規程
 - ・国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金運営委員会規程
- 6月号**
 - ・北海道大学学生相談総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程
- 7月号**
 - ・国立大学法人北海道大学における人を対象とする医学系研究に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学臨床研究データ利用許諾規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構規程の一部を改正する規程
- 8月号**
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学サステナビリティ推進機構規程
 - ・国立大学法人北海道大学における北大発ベンチャー称号授与規程の一部を改正する規程
- 9月号**
 - ・北海道大学大学文書館公文書室利用等規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における公益通報の処理及び公益通報者の保護等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学コンプライアンス基本規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学外国人研究者及び外国人留学生借上宿舍等規程の一部を改正する規程
- 10月号**
 - ・国立大学法人北海道大学契約規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学契約監視委員会規程
 - ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学通則の一部を改正する規則
 - ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
 - ・北海道大学研究生規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学短期留学プログラム規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学における特別聴講学生及び特別研究学生に係る授業料等の不徴収に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学職員の早期退職に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学年俸制教員の業績評価の実施に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学における教員のクロスアポイントメントの適用に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学電子科学研究所規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター規程の一部を改正する規程

- 11月号 ・北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学北極域研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学附属図書館規程の一部を改正する規程
- 12月号 ・北海道大学農学部規程の一部を改正する規程

研 修

- 4月号 ・令和3年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）
- 6月号 ・令和2年度 技術支援本部研究支援人材育成プログラム マルチスキル人材育成プロジェクト 部局・分野横断技術交流会を開催
- 11月号 ・高等教育研修センターにて研修会を開催

表 敬 訪 問

- 1月号 ・在札幌米国総領事館 Andrew Lee 総領事
- ・駐札幌大韓民国総領事館 Bae Byeong-soo 総領事
- ・在ザンビア日本国大使館 水内 龍太 特命全権大使
- 4月号 ・駐日ベルギー王国大使館 Roxane de BILDERLING大使
- 8月号 ・在ザンビア日本国大使館 水内龍太 特命全権大使
- 10月号 ・駐日インド大使館 Usha Dixit科学技術参事官
- 11月号 ・駐日フィンランド大使館 Niina Väisänen一等書記
- ・駐日インドネシア共和国大使館 Heri Akhmadi特命全権大使
- ・駐日ウクライナ大使館 Sergiy Korsunsky特命全権大使
- 12月号 ・台北駐日経済文化代表処札幌分処 Nien, Shinn-Shyh処長

訃 報

- 1月号 ・名誉教授 中根 文雄 氏
- ・名誉教授 杉原 平樹 氏
- 2月号 ・北海道大学病院医事課係長 渡部 陽一 氏
- 4月号 ・名誉教授 大久保 正彦 氏
- 6月号 ・名誉教授 谷 宏 氏
- ・准教授 分島 亮 氏
- 7月号 ・名誉教授 山本 眞史 氏
- ・准教授 小華和 柁志 氏
- ・名誉教授 谷口 博 氏
- 8月号 ・名誉教授 渡辺 昇 氏
- ・名誉教授 長嶋 和郎 氏
- 9月号 ・名誉教授 清水 宏 氏
- ・名誉教授 延與 三知夫 氏
- 11月号 ・特任准教授 久保 直樹 氏
- 12月号 ・教授 吉岡 充弘 氏
- ・名誉教授 横川 敏雄 氏

資 料

- 4月号 ・令和3年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- ・令和3年度入学者の都道府県分布及び地域比率
- 5月号 ・役職員数（令和3年5月1日現在）
- 6月号 ・在籍学生数（令和3年5月1日現在）
- ・令和3年度外国人留学生数（令和3年5月1日現在）
- ・令和3年度国別外国人留学生数（令和3年5月1日現在）
- 7月号 ・令和2年度卒業・修了者の就職等状況一覧
- 11月号 ・在籍学生数（令和3年10月1日現在）
- ・広報誌等一覧（令和3年10月調査）
- 12月号 ・令和3年度外国人留学生数（令和3年11月1日現在）
- ・令和3年度国別外国人留学生数（令和3年11月1日現在）
- ・北大時報掲載記事事項別一覧

編集メモ

●北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言が策定されました

12月1日（水）に北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言が策定され、2日（木）に記者会見を行いました。本学構成員一人一人がその意味と意義を理解するとともに、無意識の差別や偏見を乗り越えたバ

イアスフリーキャンパスの実現に向けて邁進する必要があります。人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室では、令和3年10月から令和4年3月までの6ヶ月間を「北海道大学がダイバーシティ&インクルージョンをちょっと考える6か月」と題して様々なキャンペーンを企画・実施しています。



記者会見の様子



記者会見の様子

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は北海道大学病院です。令和3年に設立100周年を迎えた北海道大学病院は、コロナ禍においても地域医療の旗印として使命を果たし続けています。最前線で治療にあたる医療従事者に心から感謝し、手洗い・うがいの励行やマスクの着用など、一人一人ができることを続けていきたいですね。

キャンパス風景 21 北海道大学病院（北14条西5丁目）



北大時報 ⑫ No.813 令和3年12月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>